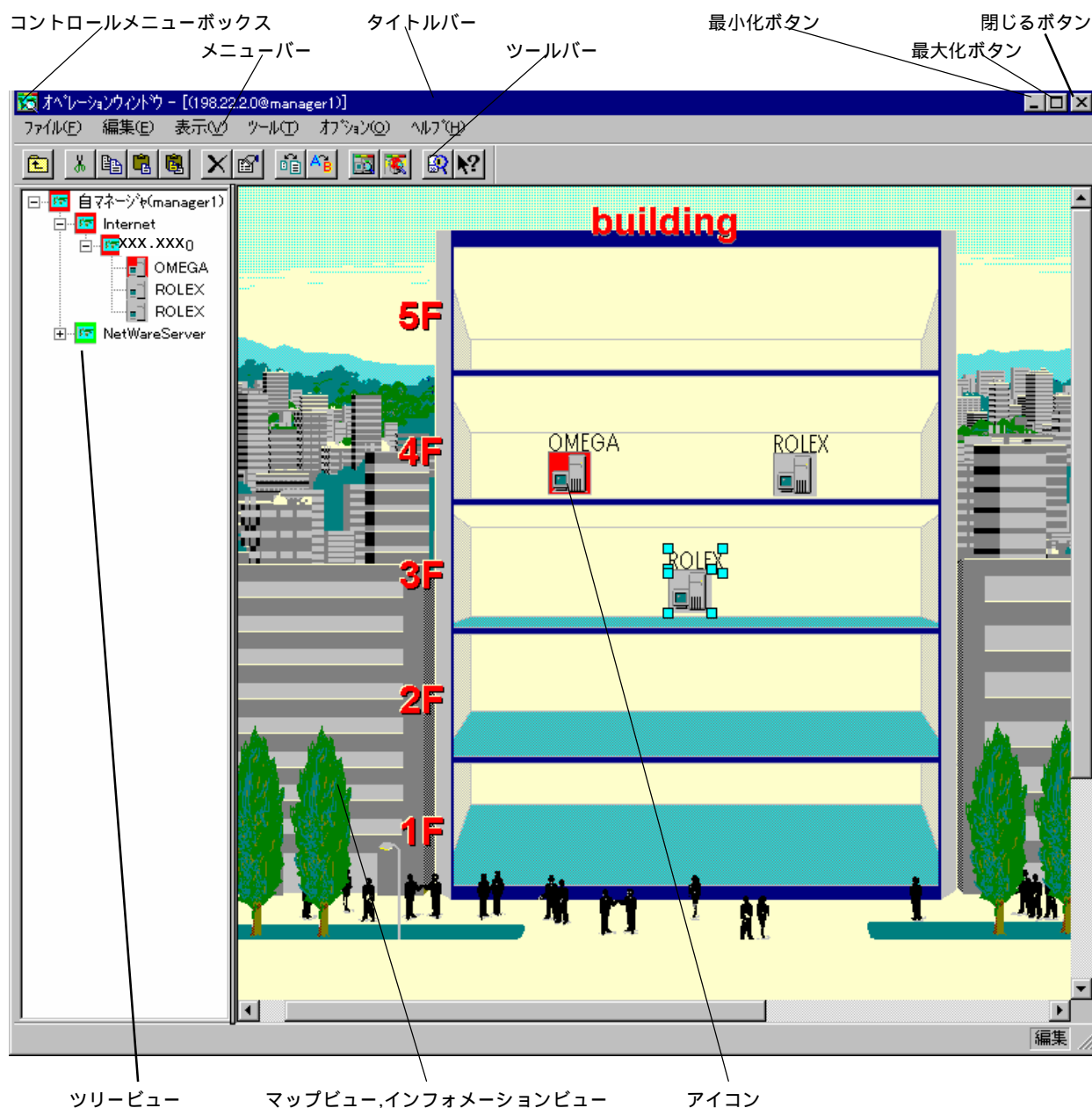


8 統合ビューア

8.1 オペレーションウィンドウ

8.1.1 画面構成

本節ではオペレーションウィンドウの画面構成と画面各部の概要を説明します。



■コントロールメニューボックス

マウスの左ボタンでクリックすると、ウィンドウに対する操作を行うメニューが表示されます。メニューでは、ウィンドウの大きさの変更や移動、アプリケーションの切り替え、ウィンドウを閉じるなどの操作を行えます。

■タイトルバー

“オペレーションウィンドウ”、および現在表示中のマップ名が表示されます。

■最小化ボタン

オペレーションウィンドウをアイコンの状態にします。

■最大化ボタン

オペレーションウィンドウのウィンドウサイズを画面全体に広げます。

■閉じるボタン

オペレーションウィンドウを閉じます。

■メニューバー

オペレーションウィンドウで利用できる機能がグループ別に表示されています。それぞれの機能はドロップダウンメニューで選択できます。メニューオプションについてはメニューバーの項を参照してください。

■ツールバー

オペレーションウィンドウで全般的に使用する機能がボタンとして表示されます。ボタンを選択すると対応した機能が実行されます。詳細については、ツールバーの項を参照してください。

■アイコン

アイコンには、管理対象となるサーバを表わすアイコンか、マップのアイコンがあります。障害発生時には、アイコンの色が障害レベルに応じて変わります。

■ツリービュー

機器の登録状況をツリー形式で表示します。

■マップビュー

特定グループ内の機器の位置情報などを登録することができます。アイコンを登録するには編集モードに移行してください。アイコンパレットが表示されます。

■インフォメーションビュー

ツリービューで、マップコンポーネントタイプ以外のアイコンを選択している場合に、オペレーションウィンドウの右側に表示されるウィンドウです。

8.1.2 メニュー

次の6種類のメニューがあります。

- 1) ファイル
- 2) 編集
- 3) 表示
- 4) ツール
- 5) オプション
- 6) ヘルプ

それぞれのメニューの機能について説明します。

8.1.2.1 ファイルメニュー



- 「ファイル」・「印刷」
現在表示中のマップビューの内容を印刷します。
- 「ファイル」・「プロパティ」
指定したコンポーネントのプロパティ(属性)をプロパティダイアログに表示します。
表示する内容は、コンポーネントの種類によって異なります。表示されるプロパティについては、ツールバーのヘルプボタンを押してから、アイコンパレット上の同種のアイコンをクリックして表示させてください。
- 「ファイル」・「新しいウィンドウを開く」
オペレーションウィンドウを新たに起動します。
- 「ファイル」・「オペレーションウィンドウの終了」
オペレーションウィンドウを終了します。

8.1.2.2 編集メニュー



- 「編集」・「切り取り」

現在選択中のアイコンを、プロパティ情報とともにカットバッファに保存します。カットバッファに保存した状態では、赤い点線枠で囲まれた状態でマップビュー上に表示されます。貼り付けたいマップアイコンかマップビュー上で[貼り付け]操作を行うと、マップビューおよびツリービューからアイコンが消え、切り取ったアイコンがあった場所相当の位置に表示されます。

注意：切り取り前の位置によっては、貼り付けたマップビュー上に表示されない場合があります。この場合、切り取り時の位置までマップビューをスクロールさせて、貼り付けられていることを確認してください。異なるマップ上で移動する際に、切り取り操作の後で、以下の操作を行うと、選択中のアイコンは解除され、元の位置に復元されます。

- アイコンの選択状態が変更されたとき
- 新たにコピーを行ったとき

- 「編集」・「コピー」

選択中のアイコンを同一マップビュー上で複製します。プロパティ情報も含めてすべて複製されます。

- 「編集」・「張り付け」

カットバッファに保存されたアイコンをマップに貼り付けます。貼り付けられたアイコンのプロパティ情報はコンポーネント名も含めてすべて復元されます。

- 「編集」・「別の名前で張り付け」

選択されているアイコンを複製します。プロパティ情報はコンポーネント名も含めてすべて複製されます。

- 「編集」・「削除」

選択されたアイコンを削除します。

- 「編集」・「全選択」

現在表示しているマップビュー内のすべてのアイコンを選択状態にします。

- 「編集」・「名前の変更」

選択中のアイコンのコンポーネント名を変更します。

- 「編集」・「アイコンタイプの変更」

選択中のアイコンの種類を変更します。同じコンポーネントタイプに属するアイコン間での変更のみ可能です。

8.1.2.3 表示メニュー



- 「表示」・「全景」

メニューを選択してチェックマークを付けると、マップビューにマップ全体が表示されるように、マップビューのサイズにあわせて、画面が自動的に拡大/縮小します。

- 「表示」・「ツールバー」

メニューを選択してチェックマークを付けるとツールバーを表示します。

- 「表示」・「アイコンパレット」

メニューを選択してチェックマークを付けると、アイコンパレットを表示します。

- 「表示」・「別名」

メニューを選択してチェックマークを付けると、各コンポーネントの別名を表示します。プロパティダイアログで別名を設定していない場合は、コンポーネント名を表示します。

- 「表示」・「グリッド」

メニューを選択してチェックマークを付けると、グリッド線を表示します。これは、アイコンどうしを一定間隔で配置したい場合に有効です。

- 「表示」・「アイコンの整列」

アイコンの整列を行います。

- 「表示」・「リフレッシュ」

リモートマネージャ管理下にあるコンポーネントの、最新の状態を取得、表示します。この機能は、常時選択可能ですが、マネージャ間通信を利用している場合にのみ意味があります。

何らかの理由でリモート側のマネージャと通信できなくなった場合には、オペレーションウィンドウの状態表示が、実際の状況と異なることがあります。このような場合は、リフレッシュ機能を使って、最新の情報を表示させてください。

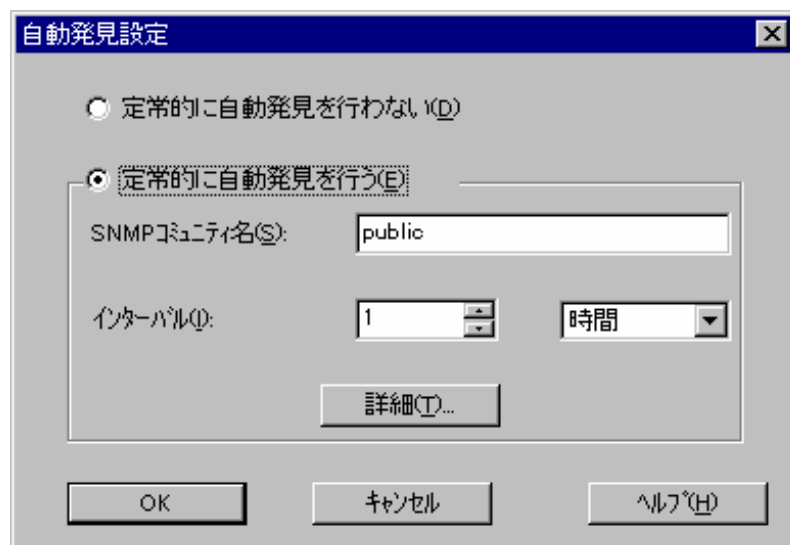
8.1.2.4 ツールメニュー



● 「ツール」・「自動発見」・「自動起動」

指定したマップに登録されているネットワークアドレス(IPアドレス)を元に、そのネットワークアドレス配下の機器を定期的に「自動発見」し、未登録の機器が発見されれば、指定したマップに登録します。デフォルトでは、「定期的に自動発見を行わない」が選択されています。

定期的自動発見では、指定されたネットワークアドレス配下のIPアドレスに対して、ICMP ECHO要求を行い、その応答が戻れば、SNMPを使ってより詳細な情報を取得します。したがって、自動発見にてクライアントを発見するには、クライアントにSNMPエージェント(サービス)をインストールしておく必要があります。SNMPエージェントのインストール方法については、「4.4.1 SNMPエージェントの組み込みと設定」を参照してください。



* 定期的に自動発見を行わない

チェックすると定期的に自動発見を行いません。

*** 定期的に自動発見を行う**

チェックするとインターバルや詳細情報に従って定期的に自動発見を行います。

*** SNMPコミュニティ名**

SNMPコミュニティ名を設定します。複数のSNMPコミュニティ名を設定する場合は、“public,esmpo”のようにカンマ(,)で続けて記述してください。

*** インターバル**

自動発見を行う間隔を設定します。インターバルに0を指定すると、1回だけ自動発見を行います(定常的な自動発見を行いません)。

*** OKボタン**

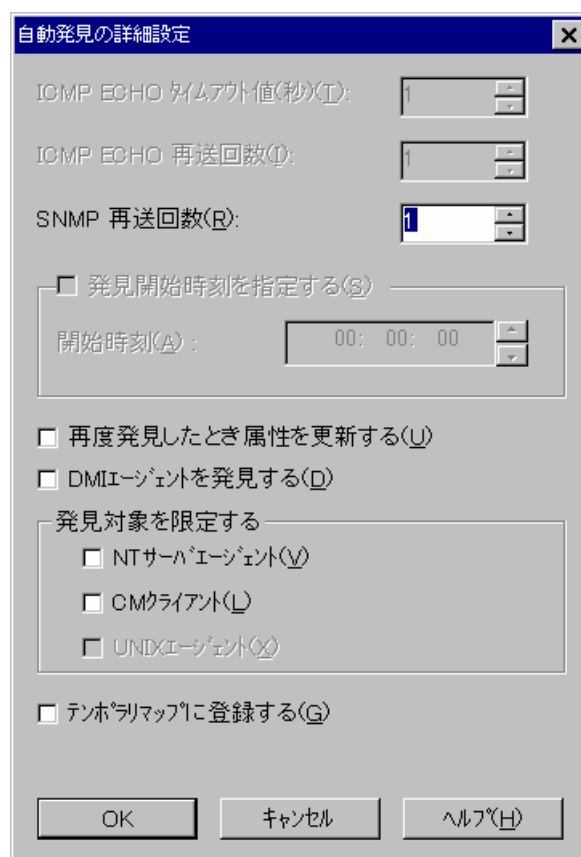
自動発見の情報を設定し、画面を閉じます。

*** キャンセルボタン**

自動発見の設定を中止します。

*** 詳細ボタン**

自動発見の詳細設定ダイアログボックスを開きます。
定常的自動発見について、より詳細な設定を行います。



自動発見の詳細設定

ICMP ECHO タイムアウト値(秒)(T): 1

ICMP ECHO 再送回数(I): 1

SNMP 再送回数(R): 1

☐ 発見開始時刻を指定する(S)

開始時刻(A): 00: 00: 00

☐ 再度発見したとき属性を更新する(U)

☐ DMIエージェントを発見する(D)

発見対象を限定する

☐ NTサーバーエージェント(V)

☐ CMクライアント(L)

☐ UNIXエージェント(X)

☐ テンポラリーマップに登録する(G)

OK キャンセル ヘルプ(H)

*** ICMP ECHOタイムアウト値**

ICMP ECHO要求に対する応答が、ここで設定指定した秒数以内に返らなかった場合に、「応答がなかった」と認識します。デフォルトは、1秒です。

*** ICMP ECHO再送回数**

ICMP ECHO要求に対して、応答がなかった場合の再送回数を設定します。デフォルトは1回です。

*** SNMP再送回数**

SNMP要求に対して応答がなかった場合の再送回数を設定します。デフォルトは1回です。

*** 開始時刻**

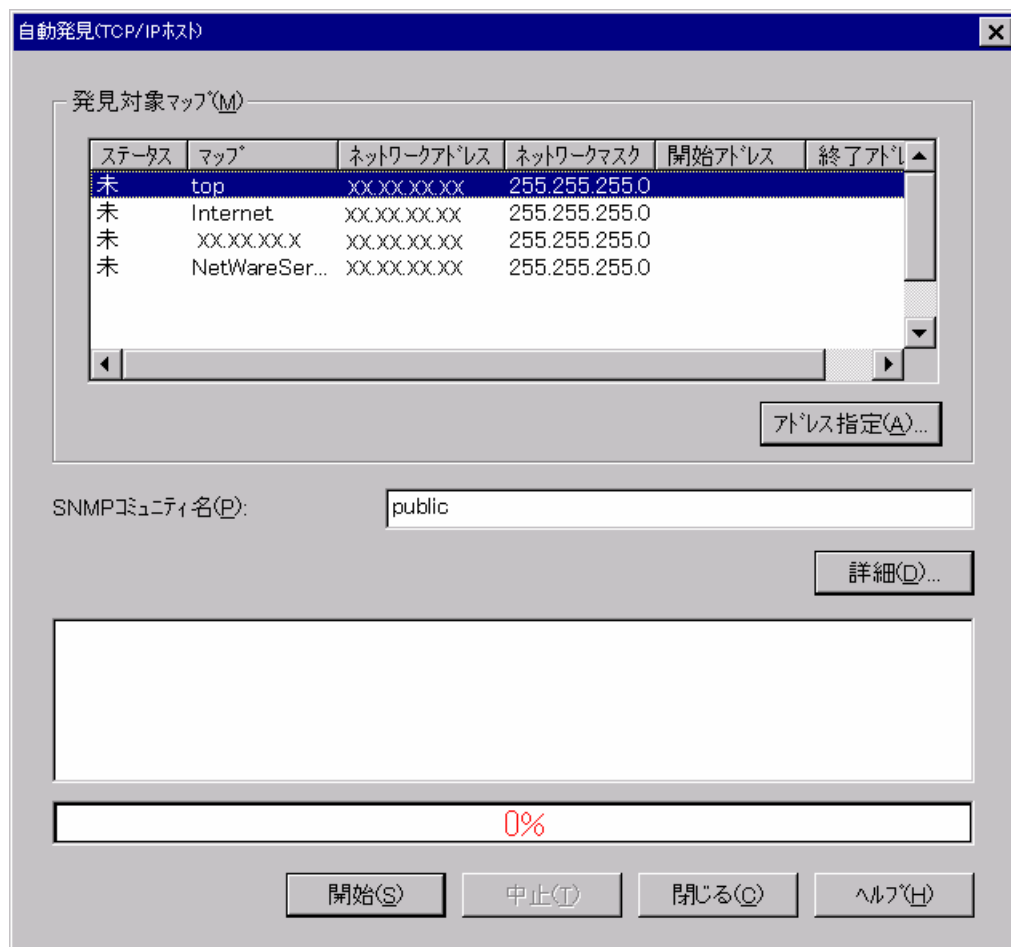
定常的自動発見を開始する時刻(現在より24時間以内の指定時刻)を設定します。この項目に指定がなければ、定常的自動発見ダイアログで「OK」をクリックした瞬間から定常的自動発見を開始します(複数のマップで、正時に定常的自動発見を開始するように設定すると、自動発見の負荷がその時刻に集中し、ネットワークやESMPROを運用している装置が高負荷になることがあります。)。

● 「ツール」・「自動発見」・「手動起動」・「TCP/IPホストの発見」

リストで選択したマップのマップビューに、指定した範囲内のIPアドレスを持つ、未登録のTCP/IPホストを発見し、あればアイコンとして登録します。

また、未登録の隣接するネットワークがあれば、Internetマップに登録し、自動発見の候補リストに追加します。

自動発見にてクライアントを発見するには、クライアントにSNMPエージェント(サービス)をインストールしておく必要があります。SNMPエージェントのインストール方法については、「4.4.1 SNMPエージェントの組み込みと設定」を参照してください。



* 発見対象マップ

TCP/IPホストの自動発見の候補リストです。選択中の候補に対して、自動発見を実行します。ダイアログ表示時は、オペレーションウィンドウのツリービューで選択されているマップと、マップビューで選択されているマップアイコンのリスト項目を選択状態にして表示します。

・ステータス

このダイアログを開いてから、自動発見を実行したかどうかを表示します。

未 : このネットワークに対して、まだ自動発見を実行していません。

検索中 : このネットワークに対して、現在自動発見を実行しています。

完了 : 自動発見をすでに完了しました。「完了」であっても、「開始」ボタンを押すと、再度自動発見を開始します。

中断 : 自動発見を中断しました。「開始」ボタンを押すと、再度自動発見を開始します。

・ネットワークアドレス

自動発見の対象となるネットワークのネットワークアドレスです。

・ネットワークマスク

自動発見の対象となるネットワークのネットワークマスクです。

・開始アドレス

自動発見の対象となる特定範囲のIPアドレスの開始アドレスです。

- ・ 終了アドレス

自動発見の対象となる特定範囲のIPアドレスの終了アドレスです。

- * **アドレス指定ボタン**

ネットワークアドレス / ネットワークマスクを指定したり、特定の範囲のIPアドレスを検索候補リストに追加したりします。

- * **SNMPコミュニティ名**

対象となっているネットワーク上の機器に設定されているSNMPコミュニティ名を設定してください。対象となっているネットワーク上のSNMPコミュニティ名が不明な場合は、“ public ”を設定してください。複数のコミュニティ名を設定する場合は、“ public,esmpo ”のようにカンマ(,)で続けて設定してください。

- * **詳細ボタン**

SNMP再送回数や開始時刻など、より細かい設定を行いたい場合に、このボタンより詳細設定ダイアログを起動し、設定してください。

詳細は「ツール」・「自動発見」・「自動起動」の説明を参照してください。

- * **表示ウィンドウ、インジケータ**

現在、どのアドレスについて探索中なのか、全探索中のどの程度が終了しているのかを表示します。

- * **開始ボタン**

TCP/IPホストの自動発見を開始し、発見したものからマップビューに登録します。

- * **中止ボタン**

自動発見を中止します。今までに発見 / 登録されているTCP/IPホストは、登録されたままです。

*** 閉じるボタン**

本ダイアログボックスを閉じます。

- 「ツール」・「アラートビューア」

アラートビューアを起動します。

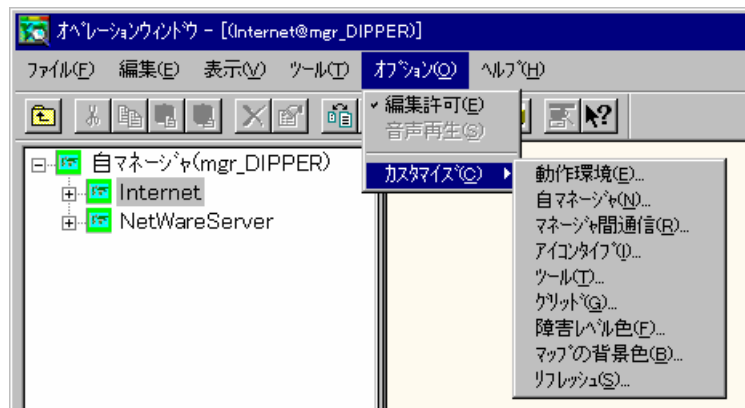
- 「ツール」・「CMデータビューア」

CMデータビューアを起動します。

- 「ツール」・「SMS」

Microsoft® Systems Management Serverを起動します。

8.1.2.5 オプションメニュー



- 「オプション」・「編集許可」

選択してチェックマークを付けると、マップビュー上でアイコンやプロパティを変更可能にします。

- 「オプション」・「音声再生」

選択してチェックマークを付けると、あるマップを開いたときやある装置のインフォメーションビューを表示させたときなどに、音声ファイルを再生するようになります。また、障害発生時に、アラートビューアが音声ファイルを再生するようになります。再生する音声データは、プロパティダイアログの「サウンド」で指定しているwav形式のファイルです。

- 「オプション」・「カスタマイズ」・「動作環境」

「動作環境」では、ESM Base Service起動中に変更可能な各種パラメータを設定します。

動作環境

SNMP/ICMPパケット

再送間隔(R) 4 4 4 4

SNMPトラップコミュニティ

コミュニティ名(C) *

イベント

タイムアウト時間(T) 30 秒

最大同時発行数(M) 0 個

最大保存数(L) 1500 個

OK キャンセル デフォルト(D) ヘルプ(H)

* SNMP/ICMPパケット再送間隔

管理対象機器に対して SNMP、ICMP パケットを送信する際の再送時間を設定します。たとえば「4 4 8」とした場合、最初の送信から 4 秒後に再送し、さらに 4 秒後にもう一度再送し、さらに 8 秒待っても応答がなければタイムアウトすることを示します。数値と数値の間には1つ以上の半角空白文字をいれてください。数値は16個まで有効です。17個以上の数値を記述した場合、17番目以降の数値は無視されます。それぞれの数値は「65535 (2の16乗 - 1)」を超えてはなりません。

* SNMPトラップコミュニティ名

受信するSNMPトラップのコミュニティ名を設定します。このコミュニティ名を持つSNMPトラップ以外は破棄します。複数のコミュニティ名を設定する場合は、コミュニティ名を「,」で区切って設定してください。何も設定しないか、「*」を設定するとすべてのSNMPトラップを受信します。コミュニティ名は、1023バイト以下の文字列でなければなりません。

* イベントタイムアウト時間

回復イベントが発生しないタイプのイベントが発生した場合に、アイコンの色を元の状態に戻すまでの時間を指定します。タイムアウト時間は、秒に変換した際の時間が「65535(2の16乗 - 1)」を超えてはなりません。

* イベント最大同時発行数

内部的な未回復イベントキューに蓄積するイベントメッセージの個数を設定します。「0」は個数を制限しないことを示します。未回復イベントメッセージはメモリ中に蓄積されますので、多くの未回復イベントメッセージの発行を許した場合、システムのメモリを食いつくす危険性がありますので注意してください。最大同時発行数は「65535 (2の16乗 - 1)」を超えてはなりません。

* イベント最大保存数

内部的なイベントログに蓄積するイベントメッセージの個数(発生イベント、検出イベント、回復イベントなどの総和)を制限します。「0」はイベントの保存を行わないことを示しま

す。多くのイベントの保存を許した場合、ディスクの容量を食いつくす危険性がありますので注意してください。最大保存数は「1000」を超えてはなりません。

* デフォルトボタン

すべての設定をインストール時の値に戻します。

● 「オプション」・「カスタマイズ」・「自マネージャ」

「自マネージャ」では、マネージャ間通信を行う場合など、システムの再起動を伴う、マネージャに関する設定を行います。

* マネージャ名

このマネージャの名前をハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)を含む63文字以内の英数文字列で設定してください。

* 管理者名

このマネージャを管理する人の名前を設定してください。日本語の使用も可能です。

* 設置場所

このマネージャの設置場所(住所、ビル名など)を設定してください。日本語の使用も可能です。

* ポート番号

マネージャ間通信を行う場合、このマネージャの TCP/IP 接続のポート番号(5001以上65535以下)を設定してください。初期インストール時の値は 8806 になっています。通常この値を変更する必要はありませんが、TCP/IP 接続を行う他のソフトウェアとポート番号がたまたま重複した場合に変更できるようになっています。マネージャ間通信「隣接マネージャタブ」の項も参照してください。

* SNMPトラップ受信方法

この項目が選択可能であれば、SNMPトラップの受信方法を選択してください。通常は、「独自方式を使用する」を選択してください。Microsoft® Systems Management Server(SMS)

Ver1.2がインストールされている場合は、「SNMPトラップサービスを使用する」を選択すると、ESMPROでもSMSでもSNMPトラップを受信できるようになります。

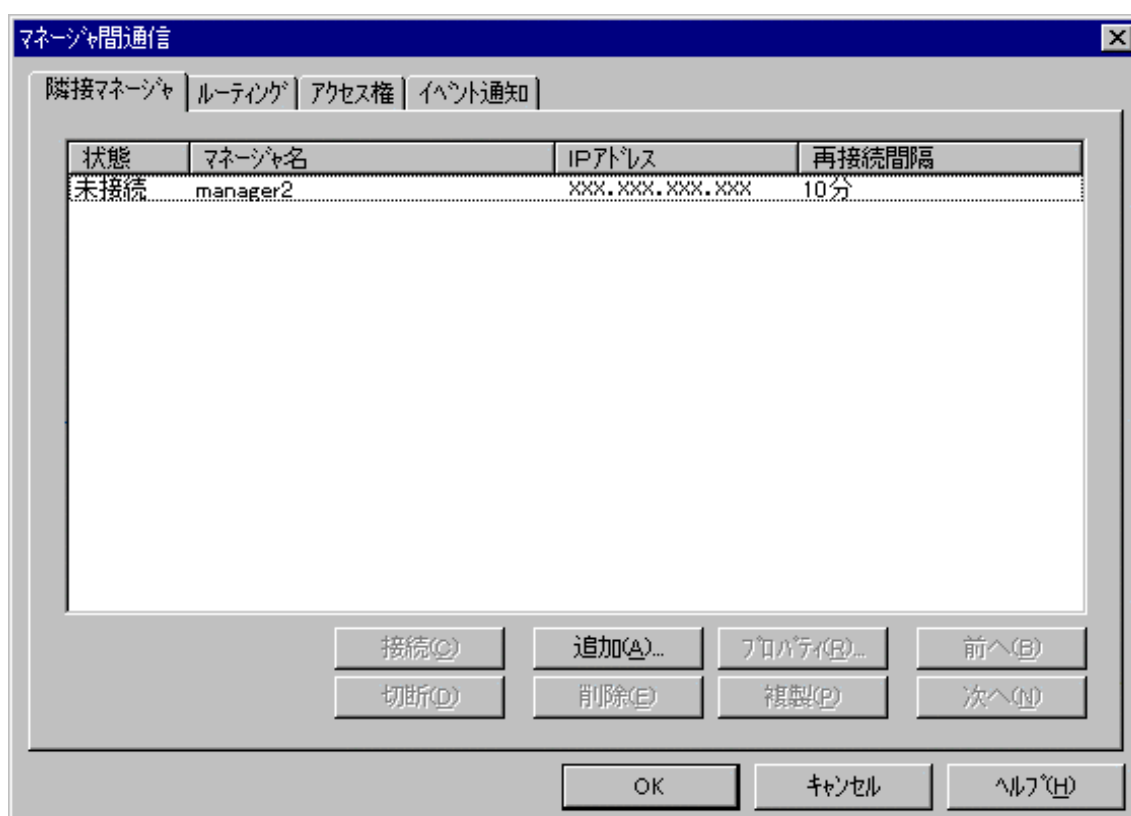
自マネージャに関する設定を変更した値は次回の Windows NTあるいはWindows95、98システムの再起動から有効になります。

- 「オプション」・「カスタマイズ」・「マネージャ間通信」

マネージャ間通信に関する各種パラメータを設定します。

- ◆ マネージャ間通信「隣接マネージャ」タブ

設定されている隣接マネージャを一覧表示し、また隣接マネージャを追加、編集、削除します。



- * 「接続」

選択中の「未接続」のエントリの接続を実行します。隣接マネージャを管理しているESM Base Service がインストールされているPCがダウンしている場合など、何らかの理由で接続できない場合があります。隣接マネージャと自動接続するように設定されていればこの項目は選択できません。

- * 「切断」

選択中の「接続中」または「接続待ち」のエントリの接続の切断を実行します。隣接マネージャと自動接続するように設定されていればこの項目は選択できません。

* 「追加」

選択中の項目に新規のエントリを追加します。選択中の項目によってそれぞれに応じた設定ダイアログが表示されます。

* 「削除」

選択中のエントリを削除します。

* 「プロパティ」

選択中のエントリの内容を更新します。選択中のエントリの種別によってそれぞれに応じた設定ダイアログが表示されます。

* 「複製」

選択中のエントリを複製します。

* 「前へ」、「次へ」

選択中のエントリを1つ前のエントリと入れ換えます。ルーティングエントリとアクセス権エントリは、エントリの順番に意味があります（最初に表れた順に評価される）ので、エントリの順番を変更したい場合はこれを実行してください。

* 「OK」

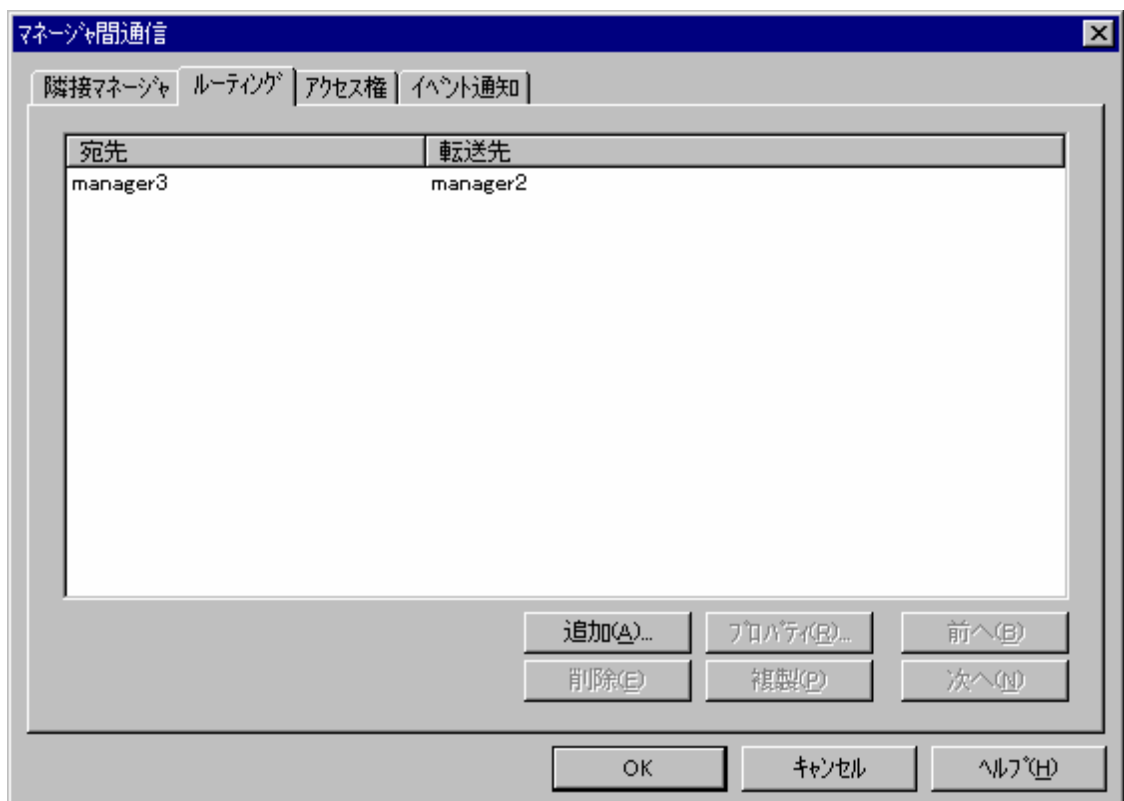
マネージャ間通信の設定を反映した後、終了します。

* 「キャンセル」

設定した内容を反映させないまま終了します。

◆ マネージャ間通信「ルーティング」タブ

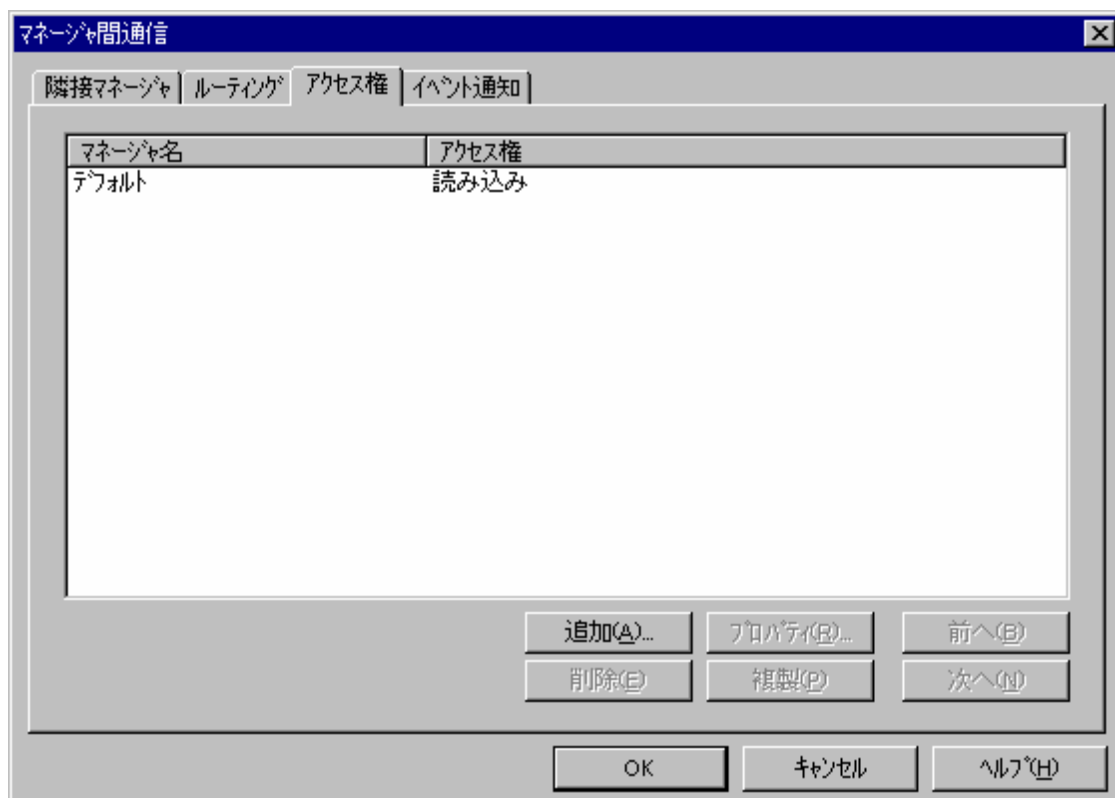
設定されているマネージャへのルーティング情報を一覧表示し、またマネージャへのルーティングを追加、編集、削除します。



- * 「追加」
選択中の項目に新規のエントリを追加します。選択中の項目によってそれぞれに応じた設定ダイアログが表示されます。
- * 「削除」
選択中のエントリを削除します。
- * 「プロパティ」
選択中のエントリの内容を更新します。選択中のエントリの種別によってそれぞれに応じた設定ダイアログが表示されます。
- * 「複製」
選択中のエントリを複製します。
- * 「前へ」、「次へ」
選択中のエントリを1つ前のエントリと入れ換えます。ルーティングエントリとアクセス権エントリは、エントリの順番に意味があります（最初に表れた順に評価される）ので、エントリの順番を変更したい場合はこれを実行してください。
- * 「OK」
マネージャ間通信の設定を反映した後、終了します。
- * 「キャンセル」
設定した内容を反映させないまま終了します。

◆ マネージャ間通信「アクセス権」タブ

設定されているマネージャへのアクセス権を一覧表示し、またアクセス権の追加、編集、削除します。



* 「追加」

選択中の項目に新規のエントリを追加します。選択中の項目によってそれぞれに応じた設定ダイアログが表示されます。

* 「削除」

選択中のエントリを削除します。

* 「プロパティ」

選択中のエントリの内容を更新します。選択中のエントリの種別によってそれぞれに応じた設定ダイアログが表示されます。

* 「複製」

選択中のエントリを複製します。

* 「前へ」、「次へ」

選択中のエントリを1つ前のエントリと入れ換えます。ルーティングエントリとアクセス権エントリは、エントリの順番に意味があります（最初に表れた順に評価される）ので、エントリの順番を変更したい場合はこれを実行してください。

* 「OK」

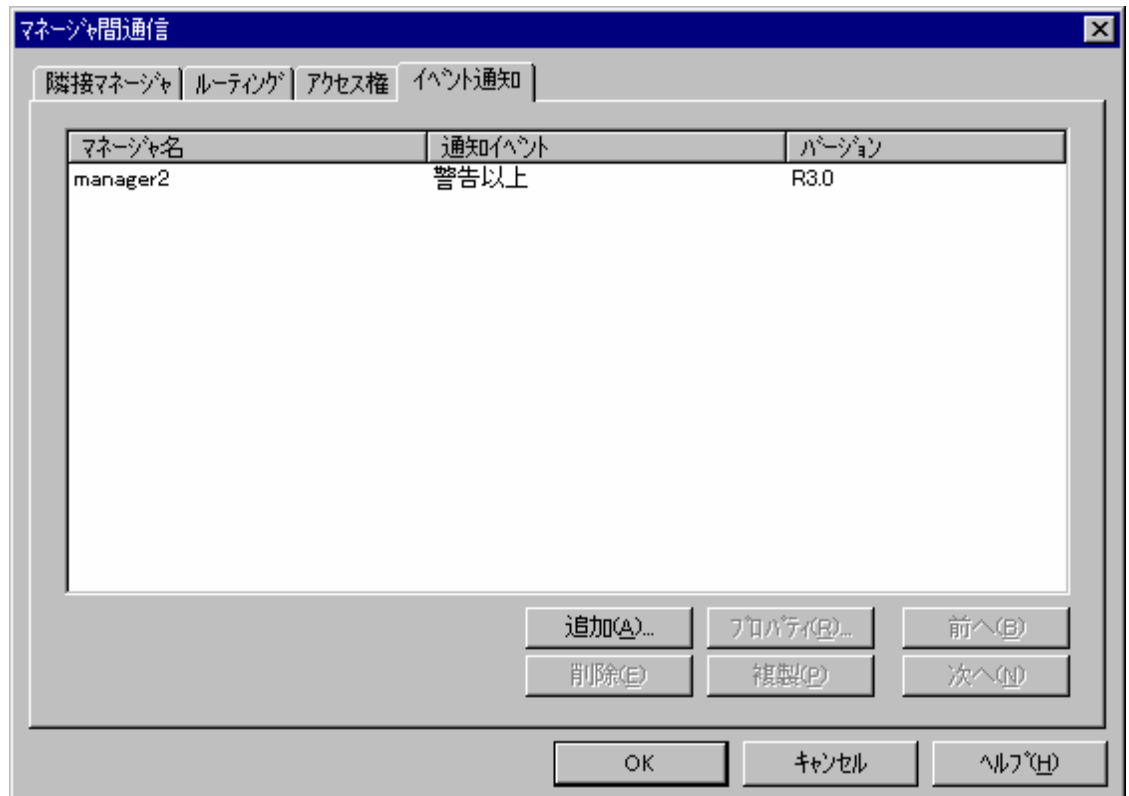
マネージャ間通信の設定を反映した後、終了します。

* 「キャンセル」

設定した内容を反映させないまま終了します。

◆ マネージャ間通信「イベント通知」タブ

設定されているマネージャへのイベント通知情報を一覧表示し、またイベント通知先の追加、編集します。



- * 「追加」
選択中の項目に新規のエントリを追加します。選択中の項目によってそれぞれに応じた設定ダイアログが表示されます。
- * 「削除」
選択中のエントリを削除します。
- * 「プロパティ」
選択中のエントリの内容を更新します。選択中のエントリの種別によってそれぞれに応じた設定ダイアログが表示されます。
- * 「複製」
選択中のエントリを複製します。
- * 「前へ」、「次へ」
選択中のエントリを1つ前のエントリと入れ換えます。ルーティングエントリとアクセス権エントリは、エントリの順番に意味があります（最初に表れた順に評価される）ので、エントリの順番を変更したい場合はこれを実行してください。
- * 「OK」


マネージャ間通信の設定を反映した後、終了します。

* 「キャンセル」

設定した内容を反映させないまま終了します。

◆ マネージャ間通信(隣接マネージャ)

マネージャ間通信機能を用いるには、「隣接マネージャ」エントリを作成して、隣接のマネージャと接続を行わなくてはなりません。このダイアログは「隣接マネージャ」エントリを作成・更新します。



隣接マネージャ設定

マネージャ名(C)

IPアドレス(I)

パスワード(P)

パスワード再入力

ポート番号(N)

☒ 自動接続(A)

再接続間隔(R) 分

* マネージャ名

相手側の隣接マネージャのマネージャ名を設定してください。これは、相手側のカスタマイズの「自マネージャ」で設定したマネージャ名です。

* IPアドレス

相手側において ESM Base Service が稼働しているホストのIPアドレスを設定してください。

* パスワード

相手と接続する際に確認しあうパスワードを設定してください。これは不正なマネージャからのアクセスを防ぎます。パスワードには以下の文字は使用しないでください。

スペース、タブ文字、ダブルクォーテーション(")、シングルクォーテーション(')、バックslash(\)、円記号 (¥)

* パスワード再入力

パスワードの誤入力を防ぐためにパスワードをもう一度入力してください。

* ポート番号

TCP/IP 接続の相手側のポート番号を指定してください。通常は変更する必要はありませんが、相手側の「自マネージャ」でポート番号を変更している場合はその値を設定してください。インストール時のデフォルト値(既定値)は 8806 番です。

* 自動接続

この項目がONになっていると、隣接マネージャとの接続が切れている場合に、定期的に隣接マネージャに対して接続要求を行います。自動接続をONにした場合は、再接続間隔を設定してください。自動接続がOFFの場合で、隣接マネージャに対して接続（切断）を行いたい場合は、マネージャ間通信ダイアログの「接続」（「切断」）ボタンをクリックしてください。

隣接マネージャ側で、自マネージャへの接続を自動接続にしていた場合、隣接マネージャ側からの自動接続要求によって自動的につながる場合があります。

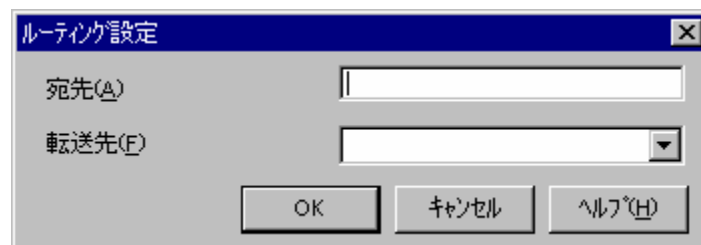
* 再接続間隔

相手側においてシステムが起動していないなどの理由で接続が完了しなかった場合、再接続を要求する間隔を設定してください。再接続間隔は「1週間」の長さを超えてはなりません。

◆ マネージャ間通信(ルーティング)

ESM Base Service はマネージャ名によるルーティング機構により、直接接続していないマネージャ(隣接でないマネージャ)とも通信することができます。たとえば、「東京」マネージャにおいて「神戸」などのマネージャとは直接通信せず、「関西」というマネージャを経由して通信することが考えられます。

この機能により、「東京」マネージャは「関西」マネージャの設定を行うだけで「神戸」マネージャと通信を行うことができるようになります。



* 宛先

宛先マネージャのマネージャ名を指定します。「*.kansai」などのアスタリスク(*)によるワイルドカードも指定できます。この場合「osaka.kansai」、「kyoto.kansai」などの名前がすべて「*.kansai」にマッチします。

* 転送先

転送先のマネージャ名を指定します。これは隣接マネージャまたは、自マネージャ名でなくてはなりません。自マネージャ名を指定した場合は、宛先マネージャ宛の通信はすべて自分に取り込みます。これにより、自マネージャが「tokyo.kantou」、「kantou」という2つのマネージャ名を名乗ることが可能になります。

◆ マネージャ間通信(イベント通知先)

状態監視機能によって、障害イベントが発生した場合に、どのマネージャにこれを通知するかを指定します。

*** マネージャ名**

障害イベントを通知する先のマネージャ名を指定してください。ワイルドカードは指定できません。

*** 障害イベント**

どのレベル以上の障害イベントを通知するかを指定してください。

*** SNMPトラップの通知**

受信したSNMPトラップを通知するかどうかを指定してください。もし、Netvisorがインストールされていない場合は、ESMPROシステムを管理するために拡張されたSNMPトラップのみを通知します。

*** バージョン**

通知先マネージャの ESM Base Serviceあるいは Netvisor のバージョンを指定してください。

● 「オプション」・「カスタマイズ」・「アイコンタイプ」

アイコンのイメージ、ポップアップメニューなどをカスタマイズします。

システムが最初から提供しているアイコンタイプ、およびそのポップアップメニューは、削除することはできませんが、ビットマップイメージを置き換えたり、ポップアップメニューを追加したりすることはできます。



◆ アイコンタイプ編集ダイアログ



* アイコンタイプ

現在、システムに登録されているアイコンタイプを一覧表示します。

ツリーの下位のアイコンタイプに位置するアイコンタイプは、上位のアイコンタイプのプロパティやメニューなどを継承します。

* 「追加」

アイコンタイプを新たに登録します。

* 「編集」

現在選択中のアイコンタイプを編集します。

* 「削除」

現在選択中のアイコンタイプを削除します。システムが提供しているアイコンタイプは削除することはできません。

◆ アイコンタイプ詳細設定(コマンド)

アイコンのポップアップメニューにメニューを追加・削除・編集します。



* アイコンタイプ名

現在編集対象になっているアイコンタイプ名を表示します。

* メニュー項目

選択中のアイコンタイプに登録しているポップアップメニューを表示します。

* テキスト

現在選択中のポップアップメニューのラベルを表示・設定します。

* コマンド

ポップアップメニューに対応するコマンド名を表示・設定します。直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックしたりして、希望するコマンドを選択してください。

* 引数

「コマンド」に渡す引数を表示・設定します。直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックしたりして、希望する置換文字列を選択してください。

* **説明文**

ポップアップメニューを探索中、マウскарソルなどでこのメニューを反転させているときに、ステータスバーに表示する文字列を表示・設定します。

* **「追加」**

ポップアップメニューに新たなメニューを追加します。

* **「削除」**

現在選択中のメニューを削除します。

* **「上へ」**

現在選択中のメニューを1つ上に移動します。

* **「下へ」**

現在選択中のメニューを1つ下に移動します。

* **表示しない**

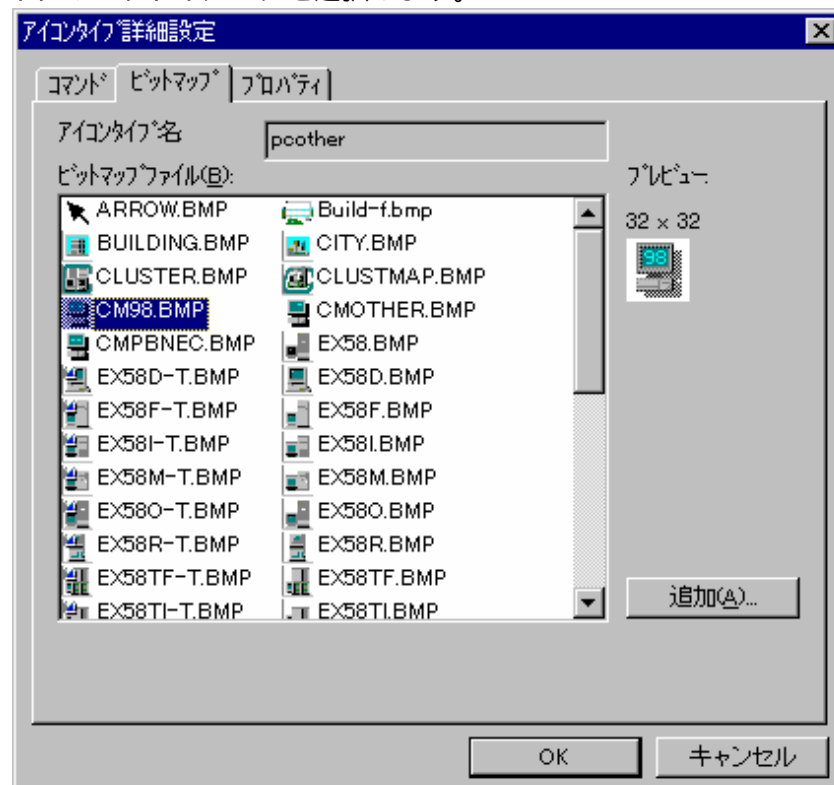
現在選択中のメニューをポップアップメニューに表示しません。

* **ダブルクリック時の動作とする**

オペレーションウィンドウ上でダブルクリックしたときに、この項目にチェックマークがついているメニューに対応したコマンドが実行されます。

◆ **アイコンタイプ詳細設定(ビットマップ)**

アイコンタイプのビットイメージを選択します。



*** アイコンタイプ名**

現在編集対象になっているアイコンタイプ名を表示します。

*** ビットマップファイル**

現在システムに登録されているビットマップファイルのリストを表示します。

*** プレビュー**

「ビットマップファイル」の欄で選択中のビットマップを表示します。このプレビューに表示されているビットマップをアイコンタイプのビットマップとして使用します。

*** 追加**

ビットマップファイルを、システムに登録します。

◆ アイコンタイプ詳細設定(プロパティ)

アイコンをオペレーションウィンドウ上に登録する際に、デフォルトのプロパティとして登録される値を定義します。ここで定義されていないプロパティにはデフォルト値が設定されません。

アイコンタイプ詳細設定

コマンド* ビットマップ* **プロパティ**

アイコンタイプ名: map

プロパティ項目(P):

- マップ名
- タイトル
- ネットワークアドレス
- ネットワークマスク
- 管理者
- 場所
- サロネール

追加(A)

削除(D)

上へ(U)

下へ(D)

テキスト(T): マップ名

保管場所(S): cmnName

初期値(V):

☐ 表示しない(N)

OK キャンセル

*** アイコンタイプ名**

現在編集対象になっているアイコンタイプ名を表示します。

*** プロパティ項目**

アイコンタイプのプロパティを表示します。

* **テキスト**

「プロパティ項目」の欄で選択しているプロパティのラベルを表示します。

* **保管場所**

このプロパティ情報を保管している場所を表示・設定します。

* **表示しない**

チェックマークを付けると、「プロパティ項目」で選択中のプロパティを、プロパティダイアログに表示しません。

* **「追加」**

アイコンタイプにプロパティを追加します。

* **「削除」**

「プロパティ項目」の欄で選択しているプロパティを削除します。システムが提供しているプロパティは削除できません。

* **「上へ」**

「プロパティ項目」の欄で選択しているプロパティを1つ上に移動します。

* **「下へ」**

「プロパティ項目」の欄で選択しているプロパティを1つ下に移動します。

● **「オプション」・「カスタマイズ」・「ツール」**

オペレーションウィンドウのメニューバーの「ツール」メニューにメニューを追加します。

ここで登録したメニューは、システムが提供しているメニューの下に追加されます。

*** メニュー項目**

現在ユーザが登録した「ツール」メニューを表示します。

*** テキスト**

メニューのラベル名を表示・設定します。

*** コマンド**

メニューに対応するコマンド名を表示・設定します。直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックしたりして、希望するコマンドを選択してください。

*** 引数**

「コマンド」に渡す引数を表示・設定します。直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックしたりして、希望する置換文字列を選択してください。

*** 説明文**

「ツール」メニューを探索中、マウスカーソルなどでこのメニューを反転させているときに、ステータスバーに表示する文字列を表示・設定します。

*** ツールバーに表示する**

チェックマークを付けると、このコマンドに対応するボタンをツールバーに登録・表示します。

*** 「追加」**

メニューを追加する場合は、この「追加」ボタンをクリックして、追加するメニュー、コマンドなどを登録します。

*** 「削除」**

メニューを削除する場合は、削除したいメニューを選択して、この「削除」ボタンをクリックします。

*** 「上へ」**

現在選択中のメニューを、1つ上に移動します。

*** 「下へ」**

現在選択中のメニューを、1つ下に移動します。

● 「オプション」・「カスタマイズ」・「グリッド」

これは[表示]-[グリッド]が選択されている場合のみ表示されます。



[表示]-[グリッド]で表示されるグリッド線の間隔、色をドット単位で指定してください。

- 「オプション」・「カスタマイズ」・「障害レベル色」

障害発生時のアイコンの色を指定します。



色を変更したいレベルのアイコンをクリックして「変更」ボタンをクリックしてください。「色の設定ダイアログ」が表示されます。「色の設定ダイアログ」の説明については Windows NT や Windows95、98 などのマニュアルやヘルプファイルを参照してください。「デフォルト」ボタンをクリックすると、インストール時の配色に戻します。

注意：なお、この障害レベル色の変更は、オペレーションウィンドウ以外の他のESMPRO関連アプリケーションには、反映されません。

- 「オプション」・「カスタマイズ」・「マップの背景色」

マップビュー、インフォメーションビューの背景色を指定します。基本色の中から希望する色を選択するか、「色の作成」ボタンをクリックして、希望する色を作成し「色の追加」ボタンをクリックしてから、「作成した色」の中からその色を選択してください。



- 「オプション」・「カスタマイズ」・「リフレッシュ」



リモートマネージャ管理下にあるコンポーネントの、最新の状態を取得、表示します。この機能は、常時選択可能ですが、マネージャ間通信を利用している場合にのみ意味があります。

何らかの理由でリモート側のマネージャと通信できなくなった場合には、オペレーションウィンドウの状態表示が、実際の状況と異なることがあります。このような場合は、リフレッシュ機能を使って、最新の情報を表示させてください。

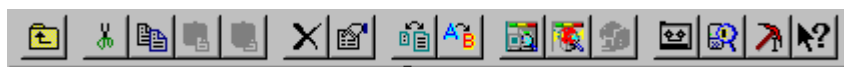
8.1.2.6 ヘルプメニュー



- 「ヘルプ」・「トピックの検索」
オペレーションウィンドウのトピックを検索します。
- 「ヘルプ」・「バージョン情報」
オペレーションウィンドウのバージョン番号を表示します。

8.1.3 ツールバー

ツールバーには、オペレーションウィンドウのメニューバーから実行できるコマンドやアイコンのポップアップメニューから実行できるコマンドのいくつかが表示されています。これらのボタンは、マウスでクリックすることによって、実行することができます。



実行できる機能は以下のとおりです。



「一つ上へ」

マップビューに表示中のマップの、1つ上のマップを表示します。インフォメーションビューを表示している場合は、対応する機器を含むマップを表示します。



「切り取り」

現在選択中のアイコンを、プロパティ情報とともにカットバッファに保存します。カットバッファに保存した状態では、赤い点線枠で囲まれた状態でマップビュー上に表示されます。貼り付けたいマップアイコンがマップビュー上で[貼り付け]操作を行うと、マップビューおよびツリービューからアイコンが消え、切り取ったアイコンがあった場所相当の位置に表示されます。

注意: 切り取り前の位置によっては、貼り付けたマップビュー上に表示されない場合があります。この場合、切り取り時の位置までマップビューをスクロールさせて、貼り付けられていることを確認してください。

異なるマップ上で移動する際に、切り取り操作の後で、以下の操作を行うと、選択中のアイコンは解除され、元の位置に復元されます。

- ・アイコンの選択状態が変更されたとき
- ・新たにコピーを行ったとき



「コピー」

選択中のアイコンを同一マップビュー上で複製します。プロパティ情報も含めてすべて複製されます。



「張り付け」

カットバッファに保存されたアイコンをマップビューに貼り付けます。貼り付けられたアイコンのプロパティ情報はコンポーネント名も含めてすべて復元されます。



「別の名前で張り付け」

選択中のアイコンを複製します。プロパティ情報は、すべて複製されますが、コンポーネント名には新たな名前が付けられます。



「削除」

選択中のアイコンを削除します。



「プロパティ」

指定したコンポーネントのプロパティ(属性)をプロパティダイアログに表示します。

表示する内容は、コンポーネントの種類によって異なります。表示されるプロパティについては、ツールバーのヘルプボタンを押してから、アイコンパレット上の同種のアイコンをクリックして表示させてください。



「全景」

メニューを選択してチェックマークを付けると、マップビューにマップ全体が表示されるように、マップビューのサイズにあわせて、画面が自動的に拡大/縮小します。



「別名表示」

メニューを選択してチェックマークを付けると、各コンポーネントの別名を表示します。プロパティダイアログで別名を設定していない場合は、コンポーネント名を表示します。



「ヘルプ」

このボタンを押した後で、メニューやアイコンパレットの上でクリックを行うと、クリックした場所に関するヘルプを表示します。

注意：同時にインストールされるESMPRO関連のアプリケーションによって、ツールバーの内容が追加される場合があります。

8.1.4 オペレーションウィンドウの基本操作

- 1) マップを作成するには
- 2) マップを削除するには
- 3) 見たいマップを表示するには
- 4) マップを印刷するには
- 5) 背景を編集するには
- 6) コンポーネント/アイコンを登録するには
- 7) アイコンを移動するには
- 8) アイコンを削除するには
- 9) コンポーネントを定期的に自動発見するには
- 10) TCP/IPホストを自動発見するには
- 11) プロパティを表示するには
- 12) プロパティを変更するには
- 13) アイコンタイプを新規登録するには
- 14) アイコンタイプを編集するには
 - 14)-1 ポップアップメニューを登録するには
 - 14)-2 ポップアップメニューを編集するには
 - 14)-3 ポップアップメニューを削除するには
 - 14)-4 ビットマップイメージを選択するには
 - 14)-5 プロパティのデフォルト値を設定するには
 - 14)-6 新しいプロパティを定義するには
 - 14)-7 プロパティを編集するには
 - 14)-8 プロパティを削除するには
- 15) アイコンタイプを削除するには
- 16) 「ツール」メニューにメニューを追加するには
- 17) 「ツール」メニューのメニューを変更するには
- 18) 「ツール」メニューからメニューを削除するには
- 19) 他のマネージャと接続するには
- 20) ワークディレクトリの場所を変更するには
- 21) サービスを(再)起動するには
- 22) システムファイルをバックアップ/リストアするには

1) マップを作成するには

- (1) オペレーションウィンドウ上でマップを作成・登録したいマップ(上位にあたるマップ)をダブルクリックして、マップビューを表示させてください。

- (2) アイコンパレット上で、作成・登録したい適切なマップ系のアイコンをクリックし、マップビューの適切な位置でクリックします。プロパティダイアログが表示されます。
- (3) 「マップ名」に63文字以内の半角英数文字列(ハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)を含む)を入力してください(たとえば、「honsha-8F」など)。
- (4) 「タイトル」に「本社ビル8階」などと設定するなど、その他のプロパティに必要な設定を行ってください。(→マップ系アイコンのプロパティ)
- (5) 「OK」ボタンを押してください。

2) マップを削除するには

- (1) 削除したいアイコンをマウスでクリックしてください。CTRLキーを押しながらクリックすると複数のアイコンを選択できます。
- (2) メニューバーの[編集]-[削除]を選択してください。
- (3) 確認ダイアログが表示されますので、よければ「OK」ボタンをクリックしてください。

3) 見たいマップを表示するには

ツリービューやマップビュー上の表示したいマップアイコンをダブルクリックしてください。

4) マップを印刷するには

オペレーションウィンドウのマップを印刷するには以下の手順にしたがってください。

- (1) 印刷を行いたいマップの内容を、マップビューに表示してください。
- (2) [ファイル]メニューから[印刷]を実行してください。

「デフォルトプリンタが設定されていません....」などのエラーが発生する場合は、「プログラムマネージャ」の「メイン」プログラムグループから「プリントマネージャ」を起動してデフォルトプリンタを設定してください。Windows95、98の場合は、「マイコンピュータ」から「プリンタ」を選択して、プリンタの設定をしてください。詳細は、それぞれのプリンタ関係のヘルプを参照してください。
- (3) 「OK」ボタンを押してください。

オペレーションウィンドウでは、それぞれのマップを1ページとして取り扱っていますので、マップの一部分のみを印刷することはできません。一部分のみを印刷したい場合は以下の手順にしたがってください。

- (1) 印刷したい部分が画面上に表れるようにオペレーションウィンドウの大きさや位置を調節してください。
- (2) オペレーションウィンドウが選択されている状態のまま、キーボードで「Alt」キーを押しながら「PrintScreen」キー(あるいは「GRPH」キーを押しながら「COPY」キー)を押してください。
- (3) 「プログラムマネージャ」の「アクセサリ」プログラムグループの「ペイントブラシ」(あるいは「ペイント」)を起動してください。

- (4) 「編集」メニューの「貼り付け」を実行してください。以降の操作は「ペイントブラシ」の「ヘルプ」を見ながら、ペイントブラシの部分印刷の機能を使用して行ってください。

カラープリンタに印刷する場合、プリンタによっては画面に表示される色で印刷されない場合があります。また、モノクロプリンタの場合にも一部の色が黒に変換されないため、その色のアイコンが印刷されないことがあります。そのようなプリンタに印刷する場合には、一時的に障害レベル色をそのプリンタが印刷可能な色に変更して、印刷するようにしてください。プリンタが印刷可能な色はプリンタによって違いますので、プリンタの説明書か、テストプリントにてご確認ください。

注意：ツリービューの内容を印刷することはできません。

5) 背景を編集するには

[背景の読み込み]

- (1) BMP形式の背景イメージをイメージ編集ツール(ペイントブラシなど)を使って作成します。
- (2) 背景を登録したいアイコンを選択して、[ファイル]-[プロパティ]を選択してください。
- (3) 背景のフィールドにあらかじめ準備していた背景イメージファイルを設定してください。

[背景の削除]

- (1) 背景を削除したいアイコンを選択後、[ファイル]-[プロパティ]を選択してください。
- (2) 背景のフィールドに記述している背景イメージファイル名を削除してください。

注意：背景データは、ディスクに残ったままなので、背景データ自身を削除する場合は、「ファイルマネージャ」などを使って、「ワークディレクトリ¥DATA¥BAKBMP」ディレクトリの下のファイルを削除してください。

6) コンポーネント/アイコンを登録するには

- (1) アイコンパレットから登録したいアイコンをクリックしてください。

アイコンパレット上部の矢印の左に現在選択中のアイコンが表示されます。同じ種類のアイコンを連続して登録したい場合は、「連続登録」モードを選択してください。「一回登録」モードの場合は、アイコンを登録するたびに、登録するアイコンの種類を選択してください。



- (2) マウスカーソルをマップの上に移動し、再度クリックしてください。
プロパティダイアログが表示されます。
- (3) プロパティダイアログにプロパティ情報を入力してください。
登録するプロパティ(属性)は、コンポーネントタイプによって異なります。どのようなプロパティを入力するかは、そのアイコンを登録したアプリケーションのヘルプファイルなどを参照してください。また、ツールバーのヘルプボタンをクリックし、アイコンパレット上のアイコンをクリックすると、そのアイコンに関するヘルプを表示します。
- (4) プロパティダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。
- (5) 「連続登録」モードの場合、もう一度マップ上でクリックを行うと次のアイコンを登録することができます。アイコンの選択を解除したい場合は、アイコンパレットの上部の矢印をクリックしてください。

登録した内容は、プロパティダイアログを使って後で変更することができます。

7) アイコンを移動するには

[同じマップ上で移動するには]

- (1) 移動したいアイコンをクリックしたまま、希望する位置までアイコンを移動させて離してください。

[異なるマップ上に移動するには]

- (1) 移動したいアイコンをクリックしたまま、メニューバーから[編集]-[切り取り]を選択してください。対象となっているアイコンが赤い点線で囲まれます。
- (2) 移動先のマップを開きます。
- (3) メニューバーから[編集]-[貼り付け]を選択してください。移動前のアイコン位置と同じ場所にアイコンが表示され、移動前のアイコンは削除されます。

注意：異なるマップ上で移動する際に、(1)の操作の後で、以下の操作を行うと、選択中のアイコンは解除されます。

- ・アイコンの選択状態が変更されたとき
- ・新たにコピーを行ったとき

8) アイコンを削除するには

- (1) 削除したいアイコンをマウスでクリックしてください。
- (2) CTRLキーを押しながらクリックすると複数のアイコンを選択できます。
- (3) メニューバーの[編集]-[削除]を選択してください。
- (4) 確認ダイアログが表示されますので、よければ「OK」ボタンをクリックしてください。

9) コンポーネントを定期的に自動発見するには

オペレーションウィンドウには、指定したネットワークアドレスを持つ未登録のコンポーネントを定期的に調べて登録する機能があります。

前提：オペレーションウィンドウが編集可能であること。

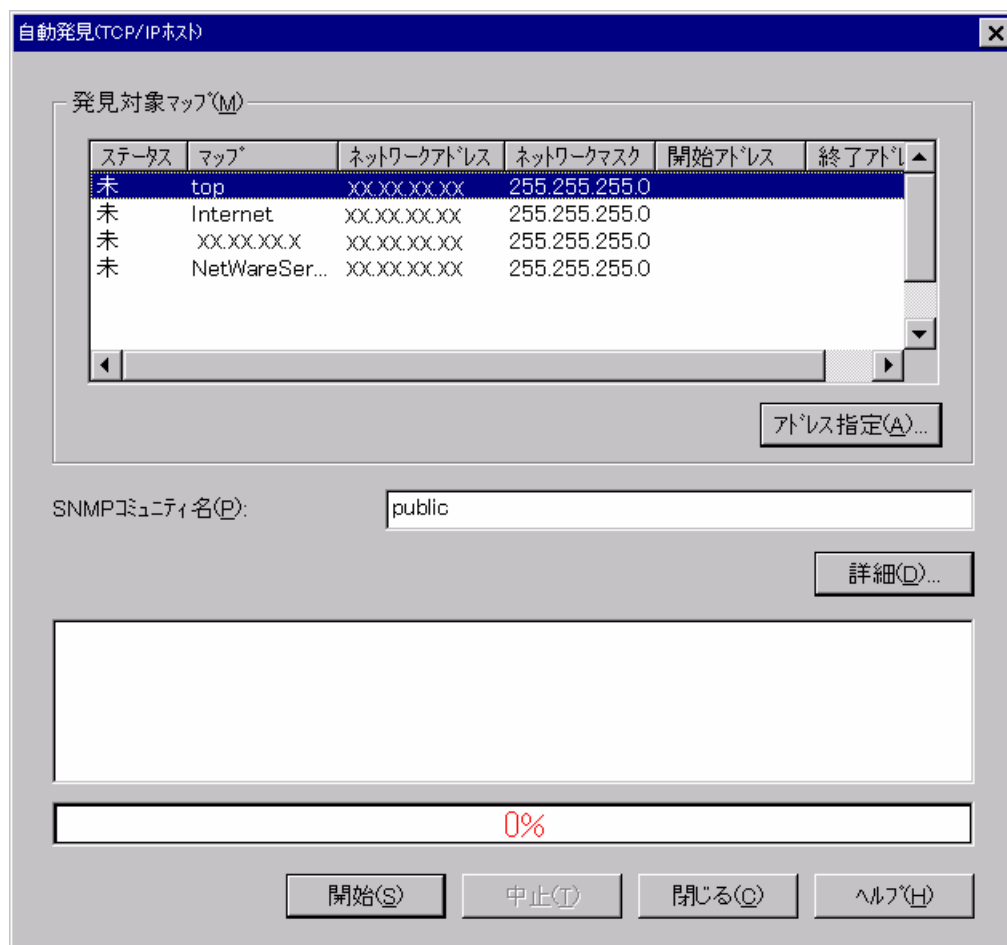
自動発見と登録を行いたいネットワークに対応したマップアイコンにネットワークアドレスが設定されていること。

- (1) 定期的に自動発見を行いたいマップのアイコンを選択して、マップを開いてください。
- (2) メニューバーから[ツール]-[自動発見]-[自動起動]を選択してください。
- (3) [定常的に自動発見を行う] にチェックを付けてください。
- (4) SNMPコミュニティ名を設定してください。複数のSNMPコミュニティ名を設定する場合は、“public,esmpro”のようにカンマ(,)で続けて設定してください。
- (5) もし、再送回数や開始時刻などを変更したい場合は、「詳細」ボタンをクリックしてください。
- (6) 設定内容に問題がなければ、「OK」をクリックしてください。

10) TCP/IPホストを自動発見するには

自動発見にてクライアントを発見するには、クライアントにSNMPエージェント(サービス)をインストールしておく必要があります。SNMPエージェントのインストール方法については、「4.4.1 SNMPエージェントの組み込みと設定」を参照してください。

- (1) TCP/IPホストを登録したいマップのアイコンを選択して、マップを開いてください。
- (2) メニューバーの[ツール]-[自動発見]-[手動起動]-[TCP/IPホストの発見]を選択してください。



- (3) ネットワークアドレス単位で自動発見を行う場合は、＜アドレス指定＞ボタンを選択して、ネットワークアドレス、およびネットワークマスクを設定してください。特定の範囲のIPアドレスを持つ装置を発見する場合は、「範囲指定」にチェックマークを付けて、開始アドレス、および終了アドレスを設定してください。

The screenshot shows a dialog box titled "アドレス指定" (Address Specification). It has two radio buttons: "アドレス/マスク指定(A)" (Address/Mask Specification) which is selected, and "範囲指定(R)" (Range Specification). Under the selected option, there are two input fields: "ネットワークアドレス(N):" (Network Address) with the value "xxx . xxx . xxx . xxx" and a dropdown arrow, and "ネットワークマスク(M):" (Network Mask) with the value "255 . 255 . 255 . 0". Under the unselected option, there are two empty input fields: "開始アドレス(S):" (Start Address) and "終了アドレス(E):" (End Address). At the bottom of the dialog are three buttons: "OK", "キャンセル" (Cancel), and "ヘルプ(H)" (Help).

- (4) 自動発見対象機器が持つ(であろう)SNMPコミュニティ名を設定してください。複数のSNMPコミュニティを設定する場合は、“public,esmpo”のようにカンマ(,)で連結してください。
- (5) ＜詳細＞ボタンを選択して送信回数を設定してください。あるIPアドレスを持つ装置を発見しようとしたときに、応答が戻らない場合は、ここで指定した送信回数分だけ、送信を繰り返します。

- (6) 設定した内容がよければ、「開始」ボタンをクリックしてください。自動発見を開始し、ダイアログ下のインジケータに、どの程度自動発見が進んでいるかを表示します。
- (7) 自動発見が終了したら、「閉じる」ボタンをクリックしてください。また、途中で自動発見を中止したい場合は、「中止」ボタンをクリックしてください。

11) プロパティを表示するには

プロパティを表示させたいコンポーネント(アイコン)を選択して、[ファイル]-[プロパティ]を選択してください。

12) プロパティを変更するには

- (1) プロパティを表示させたいコンポーネント(アイコン)を選択して、[ファイル]-[プロパティ]を選択してください。
- (2) 変更したい項目の内容を修正して「OK」ボタンを押してください。

13) アイコンタイプを新規登録するには

- (1) オペレーションウィンドウのメニューバーより、[オプション]-[カスタム]-[アイコンタイプ]を選択してください。アイコンタイプ設定ダイアログが表示されます。
- (2) 登録したいアイコンタイプの上位のアイコンタイプを「アイコンタイプ」欄でクリックして選択して、「追加」ボタンをクリックしてください。「NewIconType」というラベルのアイコンタイプが登録されます。

注意：これから登録しようとするアイコンは、ここで指定した上位のアイコンタイプのプロパティやメニューなどを継承します。

- (3) 「NewIconType」というラベルを適切な名称に変更してください。
- (4) 登録したメニューが選択されている状態で「編集」ボタンをクリックしてください。アイコンタイプ詳細設定ダイアログが表示されます。
- (5) ポップアップメニューを編集してください。上位のアイコンタイプのポップアップメニューと同じメニューでよければ、編集する必要はありません。
- (6) アイコンタイプで使用するビットマップを選択してください。上位のアイコンタイプと同じビットマップイメージでよければ、ビットマップを選択する必要はありません。
- (7) プロパティのデフォルト値を設定してください。上位のアイコンタイプと同じデフォルト値でよければ、設定する必要はありません。
- (8) 設定が終わったら、アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「OK」ボタンをクリックしてください。
- (9) オペレーションウィンドウを終了、再起動してください。

14) アイコンタイプを編集するには

前提：オペレーションウィンドウのメニューバーより、[オプション]-[カスタマイズ]-[アイコンタイプ]を選択して、アイコンタイプ編集ダイアログを表示させている。

- (1) 編集したいアイコンタイプを、アイコンタイプ設定ダイアログの「アイコンタイプ」の欄上でクリックし、「編集」ボタンをクリックしてください。
- (2) 編集したい項目を編集してください。
 - 14)-1 ポップアップメニューを登録するには
 - 14)-2 ポップアップメニューを編集するには
 - 14)-3 ポップアップメニューを削除するには
 - 14)-4 ビットマップイメージを選択するには
 - 14)-5 プロパティのデフォルト値を設定するには
 - 14)-6 新しいプロパティを定義するには
 - 14)-7 プロパティを編集するには
 - 14)-8 プロパティを削除するには
- (3) 設定が終わったら、アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「OK」ボタンをクリックしてください。
- (4) オペレーションウィンドウを終了、再起動してください。

14)-1 ポップアップメニューを登録するには

前提：オペレーションウィンドウのメニューバーより、[オプション]-[カスタマイズ]-[アイコンタイプ]を選択して、アイコンタイプ編集ダイアログを表示させている。

ポップアップメニューを登録したいアイコンを選択して、「編集」ボタンをクリックして、アイコンタイプ詳細設定ダイアログのコマンドタブを選択している。

- (1) 「追加」ボタンをクリックしてください。「NewItem」という新しいメニューが「メニュー項目」欄に表示されるとともに、テキスト、コマンド欄が編集可能になります。
- (2) 追加したいメニューのラベルを「テキスト」欄に設定してください。もし、セパレータを登録したい場合は、ハイフンを2つ続けて設定してください。
- (3) メニューに対応したコマンドを「コマンド」欄に設定してください。直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックしたりして、希望するコマンドを選択してください。
- (4) コマンドに渡す引数があれば、「引数」欄に設定してください。なお、引数にマップ名やコンポーネント名を渡すために、置換文字列を使うことができます。直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックしたりして表示されるメニューから選択してください。
- (5) メニューを探索中に、ステータスバーに表示する文字列を、「説明文」欄に設定してください。
- (6) このメニューを、ポップアップメニューに表示しない場合は、「表示しない」にチェックマークを付けてください。
- (7) アイコンをダブルクリックしたときに、現在登録中のメニュー(コマンド)を実行したければ、「ダブルクリック時の動作とする」にチェックマークを付けてください。
- (8) メニューの位置を上下に移動したければ、「上へ」ボタン、「下へ」ボタンを使って移動させてください。
- (9) ビットマップイメージの登録や、デフォルト値の設定など、他の設定事項があれば、続けて設定してください。もし、他に設定事項がなければ、「OK」ボタンをクリックしてください。アイコンタイプ詳細設定ダイアログを閉じます。

注意：システムが用意しているメニューや、上位アイコンタイプのメニューの上に、ユーザ定義のメニューを移動することはできません。

14)-2 ポップアップメニューを編集するには

前提：アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「コマンド」タブを表示していること。

- (1) 編集したいメニューをクリックしてください。
- (2) 編集したい項目(テキスト、コマンドなど)を変更してください。

注意：上位のアイコンタイプから継承しているメニューは、コマンドと引数が変更できません。

14)-3 ポップアップメニューを削除するには

前提：アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「コマンド」タブを表示していること。

- (1) 削除したいメニューを「メニュー項目」からクリックして選択してください。
- (2) 「削除」ボタンをクリックしてください。
- (3) 確認ダイアログが表示されますので、削除してよければ、「OK」をクリックしてください。

注意：システムが提供しているアイコンタイプのポップアップメニューは削除できません。ユーザが別途追加したポップアップメニューは削除可能です。

下位にアイコンタイプを持つアイコンタイプのポップアップメニューを削除する場合、下位のアイコンタイプのポップアップメニューも削除されますので注意してください。

14)-4 ビットマップイメージを選択するには

前提：アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「ビットマップ」タブを選択していること。

必要であれば、ビットマップイメージ(BMPファイル)を準備しておく。

- (1) 「ビットマップファイル」欄に、アイコンタイプを表現するのに適切なビットマップイメージがあるかどうかを確認してください。もし、なければ、「追加」ボタンをクリックして、あらかじめ準備しておいたビットマップイメージを選択して、「ビットマップファイル」内に登録してください。
- (2) 適切なビットマップイメージをクリックして選択してください。「プレビュー」欄にイメージが表示されます。このイメージをアイコンタイプのビットマップとして使用します。
- (3) デフォルト値の設定など、他の設定事項があれば、続けて設定してください。もし、他に設定事項がなければ、「OK」ボタンをクリックしてください。アイコンタイプ詳細設定ダイアログを閉じます。

14)-5 プロパティのデフォルト値を設定するには

前提：アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「値」タブを表示していること。

- (1) 「デフォルト値」欄で、デフォルト値を設定・変更したいプロパティをクリックして選択してください。
- (2) 「値」欄に、デフォルト値を設定してください。入力欄右の補助ボタンが有効な場合は、ボタンをクリックして表示される候補の中から選択することができます。
- (3) 新しいプロパティの定義など、他の設定事項があれば、続けて設定してください。もし、他に設定事項がなければ、「OK」ボタンをクリックしてください。アイコンタイプ詳細設定ダイアログを閉じます。

14)-6 新しいプロパティを定義するには

前提：アイコンタイプ編集ダイアログで、最上位のアイコンタイプ(mapやnodeと同じレベル)が選択されていること。

アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「値」タブの「編集」ボタンをクリックして、プロパティ設定項目ダイアログを表示している。

- (1) 「追加」ボタンをクリックしてください。プロパティ項目の一番下に「NewProperty」というラベルのプロパティが登録されます。
- (2) 「テキスト」欄に、適切なプロパティ名を設定してください。
- (3) 「保管場所」欄に、この情報を保管する任意の変数名(63文字以内の英数文字列で、ハイフン(-),アンダーバー(_)を含む)を設定してください。
- (4) もし、このプロパティをプロパティダイアログに表示させない場合は、「表示しない」にチェックマークを付けてください。
- (5) プロパティの位置を上下に移動したければ、「上へ」ボタン、「下へ」ボタンを使って移動させてください。

14)-7 プロパティを編集するには

前提：アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「値」タブを表示している。

- (1) 変更したいプロパティを選択してください。
- (2) 「テキスト」欄に、適切なプロパティ名を設定してください。

注意：登録されているプロパティのラベルと、表示の可否以外は変更できません。保管場所を含めて変更したい場合は、いったんプロパティを削除して、再度登録してください。

14)-8 プロパティを削除するには

前提：アイコンタイプ編集ダイアログで、最上位のアイコンタイプ(mapやnodeと同じレベル)が選択されていること。

アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「値」タブの「編集」ボタンをクリックして、プロパティ設定項目ダイアログを表示している。

- (1) 削除したいプロパティを選択して、「削除」ボタンをクリックしてください。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、削除してよければ、「OK」をクリックしてください。

注意：システムが提供しているプロパティは、削除できません。

15) アイコンタイプを削除するには


前提：オペレーションウィンドウのメニューバーより、[オプション]-[カスタマイズ]-[アイコンタイプ]を選択して、アイコンタイプ編集ダイアログを表示させている。

- (1) 削除したいアイコンタイプを、アイコンタイプ設定ダイアログの「アイコンタイプ」の欄上でクリックし、「削除」ボタンをクリックしてください。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、削除してよければ、「OK」をクリックしてください。

注意：システムが提供しているアイコンタイプは削除できません。

アイコン設定ダイアログの「アイコンタイプ」の欄で下位のアイコンタイプを持つアイコンタイプを削除する場合、下位のアイコンタイプも削除されるので注意が必要です。

16) 「ツール」メニューにメニューを追加するには

- (1) オペレーションウィンドウのメニューバーより、[オプション]-[カスタマイズ]-[ツール]を選択してください。ツール設定ダイアログが表示されます。
- (2) 「追加」ボタンをクリックしてください。「メニュー項目」欄の一番下に、「NewItem」のラベルのメニューが登録されます。
- (3) 「テキスト」欄で、メニューの適切なラベルを設定してください。セパレータを設定したい場合は、ハイフンを2つ設定してください。
- (4) メニューに対応したコマンドを「コマンド」欄に設定してください。直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックしたりして、希望するコマンドを選択してください。
- (5) コマンドに渡す引数があれば、「引数」欄に設定してください。なお、引数にマップ名やコンポーネント名を渡すために、置換文字列を使うことができます。直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックしたりして表示されるメニューから選択してください。
- (6) メニューを探索中に、ステータスバーに表示する文字列を、「説明文」欄に設定してください。
- (7) このメニューに対応したボタンをツールバーに表示させたい場合は、「ツールバーに表示する」にチェックマークを付けてください。のようなビットマップイメージでツールバーに表示します。
- (8) メニューの位置を上下に移動したければ、「上へ」ボタン、「下へ」ボタンを使って移動させてください。
- (9) すべての設定がよければ、「OK」ボタンをクリックしてください。

17) 「ツール」メニューのメニューを変更するには

- (1) オペレーションウィンドウのメニューバーより、[オプション]-[カスタマイズ]-[ツール]を選択してください。ツール設定ダイアログが表示されます。
- (2) 変更したいメニューをクリックしてください。
- (3) メニューの適切なラベル、コマンド、引数、説明文などを設定してください。

(4) すべての設定がよければ、「OK」ボタンをクリックしてください。

注意：システムが提供しているメニューは、変更できません。

18) 「ツール」メニューからメニューを削除するには

- (1) オペレーションウィンドウのメニューバーより、[オプション]-[カスタマイズ]-[ツール]を選択してください。ツール設定ダイアログが表示されます。
- (2) 削除したいメニューをクリックして、「削除」ボタンをクリックしてください。
- (3) 確認ダイアログが表示されますので、削除してよければ、「OK」をクリックしてください。

注意：システムが提供しているメニューは、削除できません。

19) 他のマネージャと接続するには

マネージャ間通信機能において「隣接マネージャ」と接続するには双方のマネージャでの設定が必要になります。以下の手順にしたがってください。

- (1) 接続をしたい相手隣接マネージャの「マネージャ名」、「IPアドレス」、「パスワード」を確認しておいてください。相手マネージャにまだ設定が行われていない場合は、以下の手順に従って設定を行っておいてください。
- (2) オペレーションウィンドウのメニューバーの「オプション」メニューから[カスタマイズ]-[自マネージャ]をクリックしてください。「自マネージャ設定ダイアログ」を表示します。
- (3) 「自マネージャ設定ダイアログ」で、「マネージャ名」、「ポート番号」を確認してください。他のマネージャと「マネージャ名」が重複してはなりません。ポート番号は通常変更する必要ありません。マネージャ名を変更する必要がある場合は変更を行って「OK」を押した後、「Windows NT(Windows95、98)」を再起動してください。変更の必要がない場合はそのまま「OK」を押してダイアログを閉じてください。
- (4) 同様に、[カスタマイズ]-[マネージャ間通信]を押して「マネージャ間通信設定ダイアログ」を表示してください。
- (5) 最初は「隣接マネージャ」タブが選択されていますので、「追加」ボタンをクリックして「隣接マネージャ設定ダイアログ」を表示してください。
- (6) 「マネージャ名」には相手側のマネージャ名を指定してください。
- (7) 「IPアドレス」には相手側のマシンのIPアドレスを指定してください。
- (8) 「パスワード」には相手側の「隣接マネージャ設定ダイアログ」で設定したパスワードを入力してください。パスワードの誤入力を防ぐため「パスワード再入力」にもう一度同じパスワードを入力してください。パスワードにはスペース、タブ文字、ダブルクォーテーション(")、シングルクォーテーション(')、バックスラッシュ(\)、円記号(¥)の文字は使用しないでください。
- (9) 入力が完了したら「OK」ボタンを押してください。

- (10) 「隣接マネージャ」タブの表示欄に、今追加した隣接マネージャのエントリが「未接続」状態が表示されます。登録内容に問題なければ、「OK」をクリックしてください。
- (11) 相手マネージャにおいてすでに設定が完了していれば両者の接続が行われます。設定が完了していない場合は、相手マネージャにおいて同じような設定を行ってください。接続が行われているか否かは、もう一度「マネージャ間通信ダイアログ」を表示することで確認できます。

以下に「kansaiマネージャ」と「tokyoマネージャ」が接続する際の両者の設定の例を示します。（この例ではポート番号の変更を行っていますが、実際にはすべて「8806」でかまいません）

kansai マネージャにおける設定	tokyo マネージャにおける設定
自マネージャ設定ダイアログ マネージャ名: kansai ポート番号: 8806 隣接マネージャ設定ダイアログ マネージャ名: tokyo IPアドレス: 172.16.38.12 パスワード: Hirake.Goma ポート番号: 7777	自マネージャ設定ダイアログ マネージャ名: tokyo ポート番号: 7777 隣接マネージャ設定ダイアログ マネージャ名: kansai IPアドレス: 192.168.22.1 パスワード: Hirake.Goma ポート番号: 8806

20) ワークディレクトリの場所を変更するには

ディスクに空き容量が足りなくなったなど、ワークディレクトリ の場所を移動したい場合は以下の手順でワークディレクトリを移動することができます。

- (1) オペレーションウィンドウなど、すべてのESMPRO関連コマンドを終了してください。
- (2) Administrators の権限をもつユーザでログオンしてください。
- (3) 「コントロールパネル」の「サービス」を用いて、以下のサービスを停止してください。
Windows95、98の場合は、ESMPRO付属のサービス制御ウィンドウを使用して停止してください。

ESM Base Service

ESM Base Serviceを停止させると自動的に他の関連サービスも停止します。これらのサービスは、サービスを再起動させる際にいっしょに起動してください。

- (4) 「ファイルマネージャ」で、ワークディレクトリ(たとえば C:\WIN32APP\ESMPRO\NVWORK)を他のドライブなどに移動してください。
- (5) 「コマンドプロンプト」からレジストリエディタ(REGEDT32かREGEDIT)コマンドを起動してください。「ローカルマシン上の HKEY_LOCAL_MACHINE」の中の、「HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\NVBASE¥」を選択し、右側の値一覧の中から「WorkDir」の1行をダブルクリックしてください。ワークディレクトリの古い場所が表示されますので、新しい場所に変更して「OK」としてください。

- (6) 「コントロールパネル」の「サービス」から再度、上記のサービスを開始してください。
Windows95、98の場合は、ESMPRO付属のサービス制御ウィンドウを使用して開始してください。

以上でワークディレクトリの移動は終了です。「ファイルマネージャ」や「レジストリエディタ」の使用方法はそれぞれのヘルプを参照してください。

21) サービスを(再)起動するには

オペレーションウィンドウでは、関連サービス一覧 に示すサービスを必要とします。これらは以下の場合に(再)起動する必要があります。

- (1) ESMPRO関連アプリケーションのインストールが完了した場合。
- (2) カスタマイズで自マネージャに関する設定を変更した場合。
- (3) カスタマイズでMIBファイルに関する設定を変更した場合。

注意：(3)は、Netvisorがインストールされていなければ、設定を変更できません。

通常、サービスの(再)起動は、Windows NTシステムを再起動することによって行います(Windows95、98の場合は後述)が、Windows NTの再起動が面倒なユーザは、以下の方法によりサービスのみを(再)起動することによりWindows NTの再起動を省略することができます。

- (1) 「コントロールパネル」の「サービス」を起動してください。
- (2) 下記のサービスが動いていればこれを「停止」してください。

ESM Base Service

ESM Base Serviceを停止させると自動的に他の関連サービスも停止します。これらのサービスは、サービスを再起動させる際にいっしょに起動してください。

- (3) 停止したサービスを「開始」ボタンで起動してください。

Windows95、98の場合は、以下のような手順で(再)起動してください。

- (1) [スタート]ボタンから[プログラム]-[ESMPRO]-[サービス制御]を選択してください。サービス制御ウィンドウが表示されます。
- (2) 上記のサービスが「開始」になっていれば、マウスでサービス名を選択してから、「停止」ボタンを押してください。
- (3) 上記のサービスを「開始」ボタンを押して再起動してください。

22) システムファイルをバックアップ/リストアするには

不慮のトラブルによるデータの紛失に備えるために、定期的にシステム情報ファイルのバックアップを行うことをお勧めします。以下の方法によりバックアップ/リストアを行ってください。

バックアップ

バックアップの必要があるのはワークディレクトリ以下のファイルです。ファイルマネージャなどにより、ワークディレクトリごと他のドライブなどにコピーしてください。

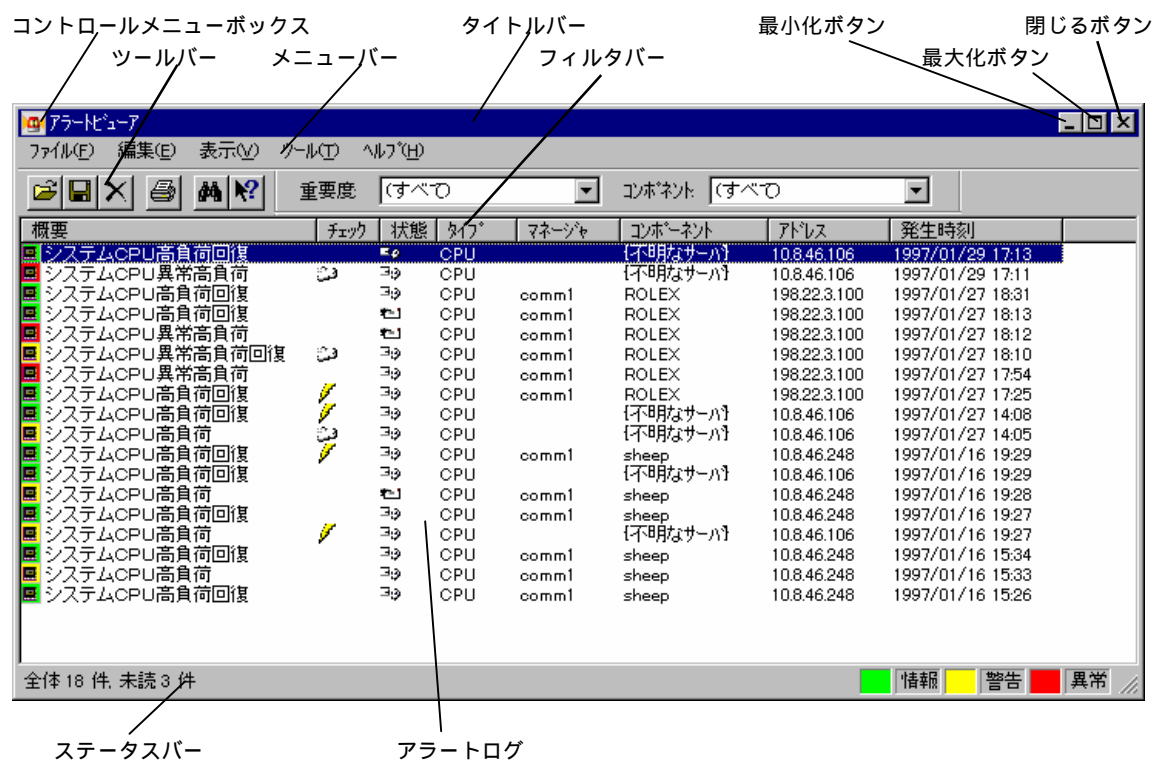
リストア

バックアップしたファイルをリストアするには、まず関連サービス一覧に示されるサービスを停止する必要があります。コントロールパネルのサービスから該当サービスを停止してください (Administrators の権限をもつユーザでなければなりません)。Windows95、98の場合は、ESMPRO付属のサービス制御ウィンドウを使用して停止してください。その後、ワークディレクトリを置き換えます(必ず、同じ位置にリストアしてください。位置を変更するときは、「8.1.4 20)ワークディレクトリの場所を変更するには」の項を参照してください)。置き換えが終了したらサービスを再起動してください。

8.2 アラートビューア

8.2.1 画面構成

本節ではアラートビューアの画面構成と画面各部の概要を説明します。



■コントロールメニューボックス

マウスの左ボタンでクリックすると、ウィンドウに対する操作を行うメニューが表示されます。コントロールメニューでは、ウィンドウの大きさの変更や移動、アプリケーションの切り替え、ウィンドウを閉じるなどの操作を行えます。

■タイトルバー

“アラートビューア”と表示されます。

■最小化ボタン

アラートビューアのウィンドウをアイコンの状態にします。

■最大化ボタン

アラートビューアのウィンドウを画面全体に表示します。

■閉じるボタン

アラートビューアのウィンドウを閉じます。

■メニューバー

メニューバーにはアラートビューアで利用できる機能がグループ別に表示されています。それぞれの機能はドロップダウンメニューで選択できます。(メニューオプションについてはメニューバーの項を参照してください。)

■ツールバー

アラートビューアでよく使用する機能がボタンとして表示されます。ボタンを押すことで対応した機能が実行されます。

■アラートログ

サーバで発生したアラートの一覧を表示します。被管理サーバ上での障害発見、および障害予防に有効活用できます。

■ステータスバー

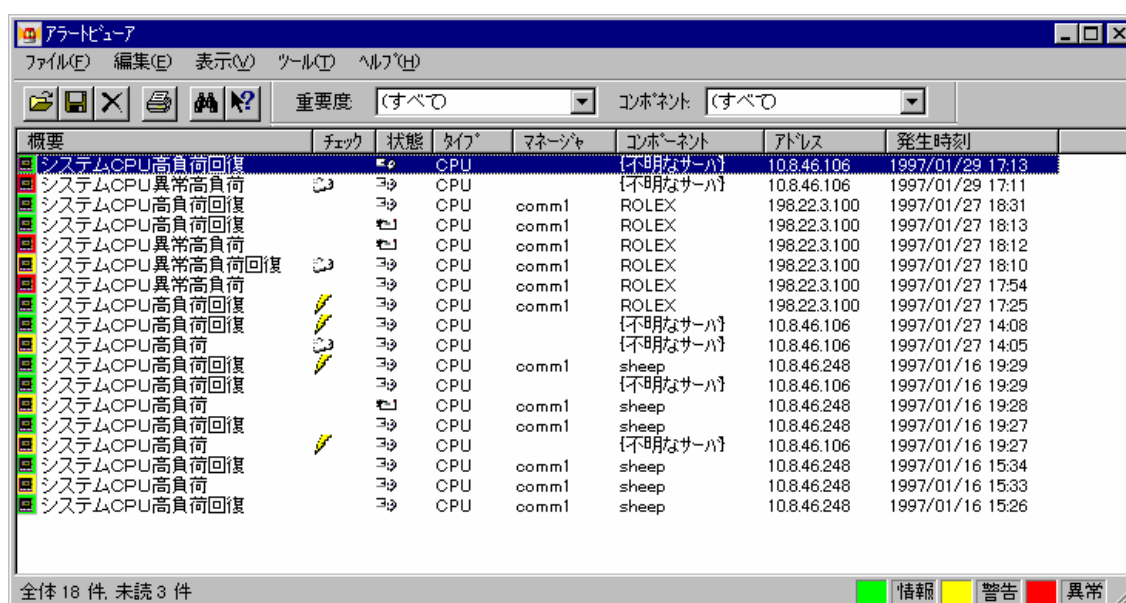
アラート件数、選択中のメニューの説明、および障害色の凡例等を表示します。

■フィルタバー

アラートメッセージは、フィルタバー中の重要度とコンポーネントの設定によってアラートログのフィルタリングを行うことができます。

8.2.2 アラートログウィンドウ

アラートビューアはCMクライアントの障害、および警告を表示します。画面には以下の情報が表示されます。(新規アラートは動的にリストに追加されます。)



概要	チェック	状態	タイプ	マネージャ	コンポーネント	アドレス	発生時刻
システムCPU高負荷回復		成功	CPU		{不明なサーバ}	10.8.46.106	1997/01/29 17:13
システムCPU異常高負荷		成功	CPU		{不明なサーバ}	10.8.46.106	1997/01/29 17:11
システムCPU高負荷回復		成功	CPU	comm1	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 18:31
システムCPU高負荷回復		成功	CPU	comm1	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 18:13
システムCPU異常高負荷		成功	CPU	comm1	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 18:12
システムCPU異常高負荷回復		成功	CPU	comm1	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 18:10
システムCPU異常高負荷		成功	CPU	comm1	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 17:54
システムCPU高負荷回復		成功	CPU	comm1	ROLEX	198.22.3.100	1997/01/27 17:25
システムCPU高負荷回復		成功	CPU		{不明なサーバ}	10.8.46.106	1997/01/27 14:08
システムCPU高負荷		成功	CPU		{不明なサーバ}	10.8.46.106	1997/01/27 14:05
システムCPU高負荷回復		成功	CPU	comm1	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 19:29
システムCPU高負荷回復		成功	CPU		{不明なサーバ}	10.8.46.106	1997/01/16 19:29
システムCPU高負荷		成功	CPU	comm1	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 19:28
システムCPU高負荷回復		成功	CPU	comm1	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 19:27
システムCPU高負荷		成功	CPU		{不明なサーバ}	10.8.46.106	1997/01/16 19:27
システムCPU高負荷回復		成功	CPU	comm1	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 15:34
システムCPU高負荷		成功	CPU	comm1	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 15:33
システムCPU高負荷回復		成功	CPU	comm1	sheep	10.8.46.248	1997/01/16 15:26

全体 18 件, 未読 3 件

情報 警告 異常

* 概要

アラートの概要および重要度を色で表示します。

緑 : 情報 サーバに関する情報です。



黄 : 警告 サーバ上で軽障害が発生したことを示します。

赤 : 異常 サーバ上で重障害が発生したことを示します。

*** チェック**

このコラムはユーザ用に設けられています。ここをクリックすることで、なし / 雲 / 雷の3つのマークを使用することができます。

*** 状態**

未だ読み取られていないメッセージのアイコンは” ”の形をしています。アラートの詳細画面が表示されたら、アイコンは” ”に変わります。

*** タイプ**

CPU、Memory、Networkなどといったアラートのタイプを示します。

*** マネージャ**

アラートの発生したサーバが属するオペレーションウィンドウ上のマネージャ名を表示します。

*** コンポーネント**

アラートの発生したサーバ名を表示します。オペレーションウィンドウに登録されていないサーバからアラートを受信すると、コンポーネント名は、{不明なサーバ} になります。

*** 製品名**

アラートを送信した製品名を表示します。ただし、バージョン 1.1 以前のESMPROエージェントからのアラートの場合は空欄となります。

*** アドレス**

アラートが発生したサーバのTCP/IPアドレス。NetWareサーバはIPXアドレスを表示します。

*** 発生時刻**

アラート受信時の日付と時間を表示します。

*** ステータスバー**

アラート件数、選択中のメニューの説明、および障害色の凡例等を表示します。

*** 障害色凡例表示**

アラートの障害色に関する凡例表示です。

8.2.2.1 メニュー

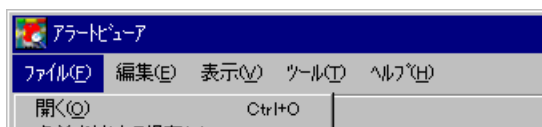
次の5種類のメニューがあります。

- 1) ファイル
- 2) 編集
- 3) 表示
- 4) ツール

5) ヘルプ

それぞれのメニューの機能について説明します。

(1) ファイルメニュー



● 「ファイル」・「開く」

一覧で選択されているアラートの詳細情報ウィンドウを開きます。

アラートが複数選択されている場合は、このコマンドは選択することはできません。

◆ 詳細情報ウィンドウ - 一般ページ

アラートについての追加情報とその問題の解決案が提供されます。



* コンポーネント

サーバ名を“サーバ名@マネージャ名”の形式で表示します。オペレーションウィンドウのマップ上に登録されていないサーバからアラートを受信すると、コンポーネント名は「不明なサーバ」と表示されます。

*** アドレス**

アラートの発生したサーバのIPあるいはIPXアドレスを表示します。

*** 発生時刻**

アラート受信時の日付と時間を表示します。

*** 詳細**

アラートの詳細情報を表示します。

*** 対処**

問題を解決するために必要な対処方法を表示します。

*** 起動ボタン**

アラートに関連したアプリケーションを起動します。

*** 閉じるボタン**

詳細情報ウィンドウを閉じます。

*** 上へボタン**

1行上のアラートログを表示します。

*** 下へボタン**

1行下のアラートログを表示します。

*** ヘルプボタン**

オンラインヘルプにアクセスします。

◆ 詳細情報ウィンドウ - SNMPページ

アラートログで選択されたアラートのSNMP情報を表示します。



* コミュニティ

トラップを生成するSNMPエージェントが属するコミュニティを表示します。

* エンタープライズ

トラップ生成元のエンタープライズを表すオブジェクト識別子を表示します。

* エージェント

トラップを送信するサーバのIPまたはIPXアドレスを表示します。

* 説明

エンタープライズの説明を表示します。

* 一般トラップコード

この値はアラートビューアでは常に6で、エンタープライズ専用トラップであることを意味します。

* 特定トラップコード

エンタープライズ専用トラップグループ内の番号を表示します。

* タイムスタンプ

トラップを生成するSNMPエージェントが初期化されてからの経過時間を表示します。

◆ 詳細画面ウィンドウ - 通報ステータスページ

アラートマネージャによる電子メール、FAX、ページャを介したアラート転送のステータスが格納されます。



* 通報

アラートメッセージ転送のステータスを表示します。

* 設定ボタン

通報設定を構成します。

● 「ファイル」・「名前を付けて保存」

選択されたアラートメッセージをCSV形式でテキストファイルに保存します。

● 「ファイル」・「データベースに保存」

アラートビューアで表示されている情報を、ODBCをサポートしたデータベースに格納することが可能です。ここで指定したデータソースに,"AlertLog"というテーブルを作成し,そこに以下の情報が格納されます。

項目名	データタイプ	内容
重要度	SQL_VARCHAR	アラートの重要度。以下の文字列がセットされる。 不明 情報 警告 異常
概要	SQL_VARCHAR	アラートの概要です
タイプ	SQL_VARCHAR	アラートのタイプです
マネージャ	SQL_VARCHAR	アラートの発生したサーバの属するオペレーション ウィンドウ上のマネージャ名です。
コンポーネント	SQL_VARCHAR	アラートの発生したコンポーネントの名前
アドレス	SQL_VARCHAR	アラートの発生したサーバのIP(IPX)アドレス
発生時刻	SQL_VARCHAR	アラートの発生した日時 (例1997/01/21 21:12)
ソース	SQL_VARCHAR	アラートの発生源となったWindows NTイベントソ ース名 (注)
EventID	SQL_VARCHAR	アラートの発生源となったWindows NTイベントID (注)
詳細	SQL_VARCHAR	アラートの詳細
対処	SQL_VARCHAR	アラートの対処

注) : NetWare サーバからのアラートの場合はセットされません。またWindows NTサーバからのアラートの場合でも、アラートによっては空白となります。

◆ SQLデータソース画面



*** テキスト入力**

データベースの名前を入力するか、リストから選択します。

*** リストボックス**

リストからデータベースを選択するか、上のテキスト入力ボックス中に名前を入力します。

*** 新規作成ボタン**

このボタンにより、新規データベース名を入力できます。

*** OKボタン**

データベースに情報を保存します。

*** キャンセルボタン**

何もせず画面を閉じます。

● 「ファイル」・「印刷」

選択されたアラートログ刷します。

● 「ファイル」・「印刷設定」

プリンタの設定を表示します。

● 「ファイル」・「削除」

選択されているアラートを削除します。

● 「ファイル」・「アラートパスの切り替え」

アラートログの読み込み先ディレクトリを変更します。

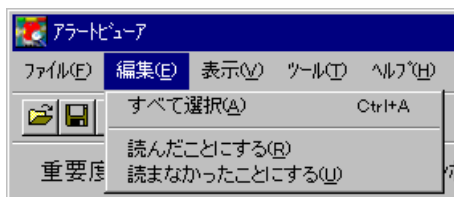
この機能を使用して、同一LAN内にある他のコンピュータが管理しているアラートログを表示することができます。

アラートログファイルはアラートビューアの作業用ディレクトリ、通常はインストール先ディレクトリ¥network¥alertディレクトリ配下にありますので、参照したいコンピュータ内の上記パスをネットワーク上で共有しネットワークドライブに割り当ててください。そしてこの機能を使ってアラートパスを切り替えれば、目的とするコンピュータ内のアラートログを参照することができます。

● 「ファイル」・「アプリケーションの終了」

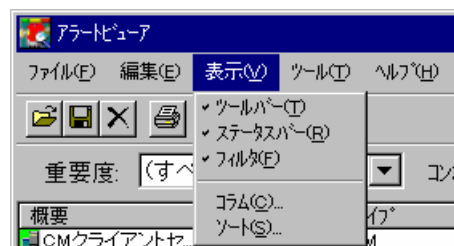
アラートビューアを終了します。

(2) 編集メニュー



- 「編集」・「すべて選択」
すべてのアラートログを選択します。
- 「編集」・「読んだことにする」
選択されているアラートログを読んだことにします
- 「編集」・「読まなかったことにする」
選択されているアラートログを読まなかったことにします。

(3) 表示メニュー



- 「表示」・「ツールバー」
この項目がチェックされると、ツールバーが表示されます。
- 「表示」・「ステータスバー」
この項目がチェックされると、ステータスバーが表示されます。
- 「表示」・「フィルタ」
この項目がチェックされると、フィルタが表示されます。
- 「表示」・「コラム」
コラム設定のダイアログを開きます。コラム設定のダイアログでは表示するコラムや、コラムの並びなどの設定を行うことができます。



*** 表示する項目**

アラート一覧に表示される項目を表示します。

このボックスから項目を削除するためには、希望する項目を選択して削除をクリックします。

項目を追加するためには、表示できる項目で選択をして追加をクリックします。

*** 表示できる項目**

表示できる項目はアラート一覧で表示可能な項目を表示します。

現在アラートログで表示されている情報は、表示する項目という右側のボックスに表示されます。

*** 追加ボタン**

このボタンを使って表示できる項目ボックスで選択された項目を表示する項目に追加します。

*** 削除ボタン**

このボタンを使って表示する項目ボックスで選択された項目を削除します。

*** 上矢印**

コラムは表示する項目で表示されている順序で画面に表示されます。（たとえば、このリストの一番上にあるコラムはアラートログの左側に表示されます。）上ボタンをを使って選択したコラムを上に移動します。

*** 下矢印**

コラムは表示する項目で表示されている順序で画面に表示されます。（たとえば、このリストの一番下にあるコラムはアラートログの右側に表示されます。）下ボタンをを使って選択したコラムをリストの下に移動します。

*** OKボタン**

変更を確定し画面を閉じます。

*** キャンセルボタン**

何も変更せず画面を閉じます。

*** リセットボタン**

コラム設定をインストール時の状態に戻します。

*** ヘルプボタン**

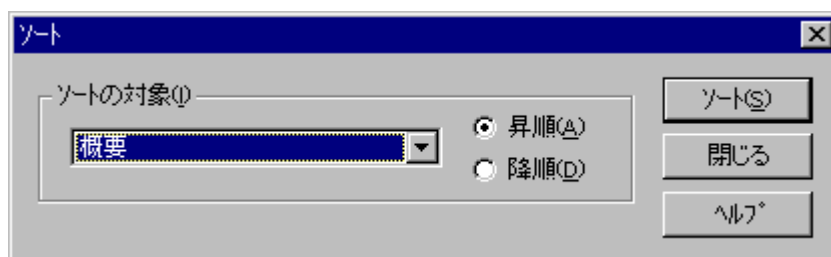
オンラインヘルプにアクセスします。

● 「表示」・「ソート」

アラート一覧のソートを行います。

昇順と降順のどちらでもソートでき、どのコラムでもソートの対象として使うことができます。

コラムタイトルをクリックしてソートすることもできます。一回クリックすると、昇順でコラムをソートします。もう一回クリックすると、降順でコラムをソートします。



*** ソートの対象**

ソートの対象となるアイテムを選択します。

*** 昇順**

昇順にソートします。

*** 降順**

降順にソートします。

*** ソートボタン**

指定された条件でソートを行います。

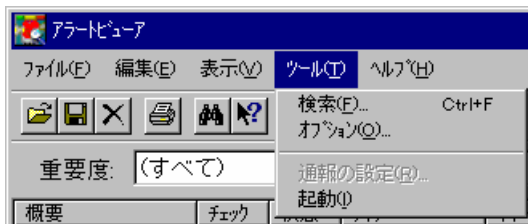
*** 閉じるボタン**

アラート一覧のソートを行わずにウィンドウを閉じます。

*** ヘルプボタン**

オンラインヘルプにアクセスします。

(4) ツールメニュー

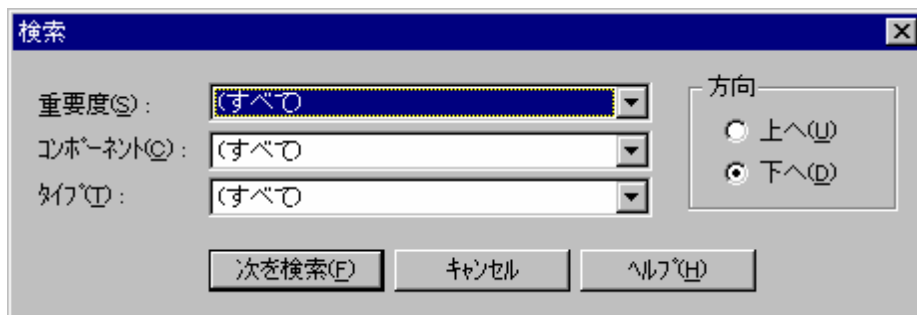


● 「ツール」・「検索」

アラートログ中の特定のタイプのアラートログを探します。検索ダイアログボックスが表示されます。

特定のコンポーネント名、重要度、およびアラートタイプをもつアラートログを検索することができます。

検索を開始するには、ツールメニューから検索を選択するかF3キーを押してください。



* 重要度による検索

特定の重要度のアラートログに検索を制限します。たとえば、異常のアラートログだけを検索の対象にすることができます。

* コンポーネントによる検索

特定のコンポーネントに関するアラートログに検索を制限します。たとえば、特定のサーバに関するアラートログだけを検索の対象にすることができます。

* タイプによる検索

アラートタイプによって検索を制限します。たとえば、ファンやネットワークに関するアラートログだけを検索の対象にすることができます。

* 方向

検索方向を設定します。

* 次を検索ボタン

アラート一覧画面で、検索を実行します。

検索の条件に一致する次のアラートが選択されます。

* キャンセルボタン

処理を中断し、検索ダイアログボックスを閉じます。

*** ヘルプボタン**

オンラインヘルプへアクセスします。

● 「ツール」・「オプション」

アラートメッセージの表示方法を決定します。オプションダイアログボックスが表示されます。このダイアログでは、アラートメッセージの表示方法を決定します。

アラートメッセージの受信時にサウンドファイルを使ったり、ポップアップダイアログを表示するよう選択でき、重要度によるアラートメッセージのフィルタリング、およびアラートログのサイズの定義もできます。

◆ 一般ページ



*** ポップアップダイアログを表示しない**

このオプションをチェックすると、アラート受信時にポップアップダイアログを表示しません。ただし、チェックされていても、新しく受信したアラートはアラート一覧に追加されます。

*** ポップアップダイアログを表示する**

「ポップアップダイアログを表示する」をチェックすると、アラート受信時にポップアップダイアログが表示されます。この画面で、どの重要度でポップアップダイアログを表示するかを指定できます。

*** 情報**

チェックされると、情報のアラート受信時にポップアップダイアログを表示します。

*** 警告**

チェックされると、警告のアラート受信時にポップアップダイアログを表示します。

*** 異常**

チェックされると、異常のアラート受信時にポップアップダイアログを表示します。

*** 不明**

チェックされると、不明のアラート受信時にポップアップダイアログを表示します。

・ ポップアップアラート

通知メッセージを受信するように指示している場合には、下のようなダイアログボックスが表示されます。



・ アイコン

左側のアイコンはアラートタイプ（情報、警告、異常、不明）を表示します。右側のアイコンは、アラートタイプに応じたアニメーションを表示します。

・ アラートメッセージ

アラートの概要です。

・ コンポーネント

アラートの発生したコンポーネント名を以下の形式で表示します。

コンポーネント名@マネージャ名

・ アラートログボタン

アラートログを表示します。

・ 起動

アラートに関連したアプリケーションを起動します。

・ ヘルプボタン

オンラインヘルプへアクセスします。

・ 閉じるボタン

ポップアップウィンドウを閉じます

*** 音で知らせる**

チェックされていると、アラートメッセージ受信時にサウンドファイルが使用されます。使用しているコンピュータがサウンドを使えない場合は、かわりにビープ音が発生します。

*** アラート一覧に標準のアイコンを使用**

チェックされると、アラートログの概要コラムに表示されているアイコンが、Windows標準アイコンになります。

チェックされていないと、アラートタイプに応じたアイコンが表示されます。

*** アラート削除時に確認のダイアログを表示**

チェックされると、ファイル / 削除を選択したときに確認のメッセージボックスが表示されます。

*** アラートドリブンのステータス管理**

通常オペレーションウィンドウでは、サーバの状態はサーバへのポーリングによって管理されています。

このオプションがチェックされると、上記管理に加えてアラートもサーバの状態管理に使用されるようになります。

たとえば次のような状況を考えてみます。

サーバ HAL があり、現在正常な状態にあります。そして HAL で3件のアラートが発生したとします。

- 1 . 情報のアラート
- 2 . 警告のアラート
- 3 . 異常のアラート

情報のアラートはアラートドリブンのステータス管理に一切影響をおよぼしません。不明なアラートも同様です。

警告のアラートはサーバの状態を警告とし、異常のアラートはサーバの状態を異常にします。もっとも重要度の高いアラートがサーバの状態に反映されるため、結局 HALは異常な状態になります。

今、アラートビューアから詳細画面を開くことで異常のアラートを読むか、あるいはメニューから読んだことにするを選択すると、このアラートはサーバの状態色に影響をおよぼさなくなります。

このとき、サーバの状態色に影響をおよぼすアラートの中でもっとも重要度の高いものは警告のアラートになるので、HAL の状態は警告になります。

次に警告のアラートを読むと、同じようにして HAL の状態は正常に戻ります。

このとき、ポーリングによるサーバの状態がたとえば警告である場合は HAL は警告の状態にしかならないことに注意してください。

アラートの削除もまた、アラートを読む（あるいは読んだことにする）のと同じ効果を持ちます。

メニューより読まなかったことにするを選択すると、そのアラートはまたサーバの状態色に影響をおよぼすようになります。

*** 最大ログ件数**

アラートログの最大ログ件数を1から1,000の間で指定します。この件数を超えてアラートを受信した場合、最も古いアラートログから上書されます。

注意：最大ログ件数には、すでに受信したアラートログの件数と同じか、あるいは大きな値を指定してください。

小さい値を指定する場合は、あらかじめアラートログを削除してください。

*** OKボタン**

設定された内容を保存し、オプション画面を閉じます。

*** 更新ボタン**

現在設定されている内容で、オプションを更新します。

*** キャンセルボタン**

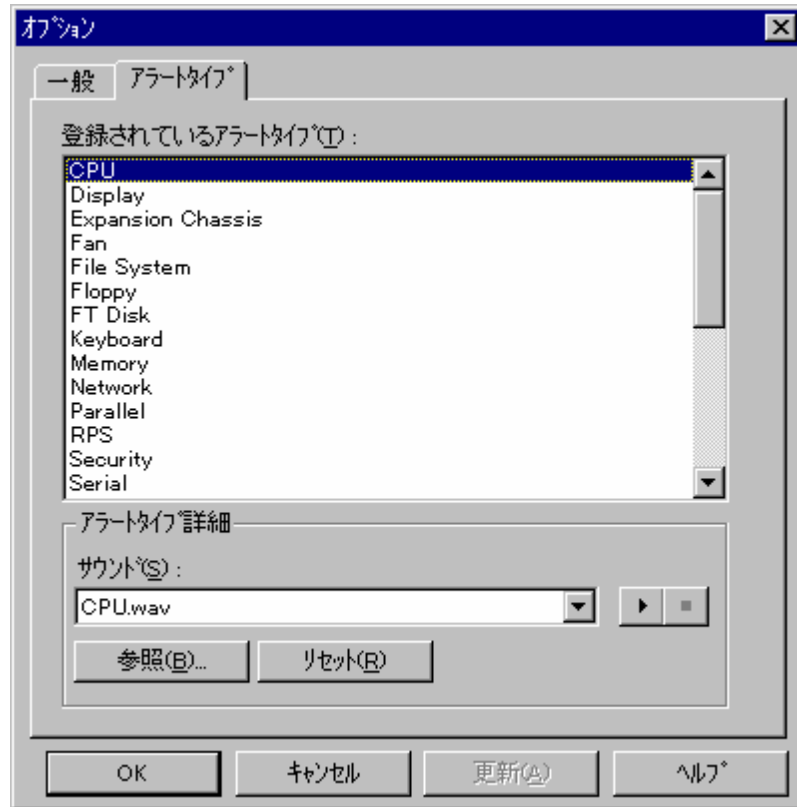
処理を中断し、オプション画面を閉じます。

*** ヘルプボタン**

オンラインヘルプへアクセスします。

◆ アラートタイプページ

各アラートタイプごとにWAVEファイルを指定することができます。このWAVEファイルはアラート受信時に再生されます。



* 登録されているアラートタイプ

このリストには全アラートタイプが含まれています。このリストを編集することはできません。

サウンドファイルにアラートタイプを割り当てるためには、リストでアラートタイプを選択して、サウンドファイルを選択し、それから更新を選択します。

* アラートタイプ詳細

アラートタイプの詳細を表示します。

* 参照ボタン

別ディレクトリのWAVEファイルを参照します。

* 再生ボタン

WAVEファイルの再生を行います。

* 停止ボタン

WAVEファイルの再生を停止します。

* リセット

リセットします。

- 「ツール」・「通報の設定」

アラート受信時の通報の設定を行います。アラートマネージャがインストールされていないと実行できません。

- 「ツール」・「起動」

選択されているアラートに連携するアプリケーションを起動します。

(5) ヘルプメニュー



- 「ヘルプ」・「トピックの検索」

アラートビューアのヘルプファイルの目次を開きます。

- 「ヘルプ」・「バージョン情報」

アラートビューアのバージョン番号を表示します。

8	統合ビューア.....	8-1
8.1	オペレーションウィンドウ.....	8-1
8.1.1	画面構成	8-1
8.1.2	メニュー	8-3
8.1.3	ツールバー.....	8-31
8.1.4	オペレーションウィンドウの基本操作.....	8-34
8.2	アラートビューア	8-51
8.2.1	画面構成	8-51
8.2.2	アラートログウィンドウ.....	8-52
	アイコンタイプ	8-22
	アラートビューア.....	8-52
	アラートメッセージの表示	8-64
	オペレーションウィンドウ	8-1
	マネージャ間通信.....	8-14
	ルーティング	8-15
	統合ビューア	8-1